

# Dr. Engrave

## ユーザーズマニュアル

本書は、プレート彫刻用の  
アプリケーションソフトウェア  
**Dr. Engrave for Windows**  
の操作説明書です。

# 目次

## はじめに

Dr.Engraveの動作環境 .....	5
Dr.Engraveの概要 .....	5
Dr.Engraveの起動 .....	6
画面の名前と働き .....	7

## 操作手順

はじめに .....	9
Step 1: 材料の大きさを入力する .....	10
Step 2: 加工条件を設定する .....	11
Step 3: 文字を入力する .....	12
Step 4: 図形を描く .....	13
Step 5: 画像ファイルを読み込む .....	13
Step 6: ファイルを保存する .....	14
Step 7: 彫刻を始める .....	14

## オブジェクトの基本操作

オブジェクトを選択する .....	16
オブジェクトの選択を解除する .....	16
オブジェクトを水平・垂直に移動する .....	16
オブジェクトのサイズを変える .....	16
オブジェクトの回転 .....	16
オブジェクトの傾斜 .....	17
オブジェクトの複製 .....	17
オブジェクトの削除 .....	17
多角形(連続直線)の頂点を選択する .....	17
多角形(連続直線)の複数の頂点を選択する .....	17
多角形(連続直線)の全ての頂点を選択する .....	18
多角形(連続直線)の頂点を水平・垂直に移動する .....	18
多角形(連続直線)の頂点を追加する .....	18
多角形(連続直線)の頂点を削除する .....	18

## ヒントとテクニック

彫刻の原点について .....	20
彫刻の深さを変える .....	20
同じサイズのプレートを一括で彫刻する .....	21

一枚のプレートを分割して複数のプレートを作る .....	24
任意のプレートを再加工する .....	27
文字枠にテキストファイルを読み込む .....	27
文字の彫刻を高速化する .....	28
縦横比が1:1の図形(真円や正方形など)を作る .....	28
中心位置を変えずに大きさを変える .....	28
図形を中心点から描き始める .....	29
正多角形を作る .....	29
オブジェクトの位置を中心点で揃える .....	29
オブジェクトの位置を揃える -グリッド・スナップの利用- .....	30
市販のソフトウェアで作成した図形を貼り付ける .....	30
シンボル図形を貼り付ける .....	31
日本語を入力する .....	31
数値の単位を変えるには .....	31
スキャナを使って画像を読み込む .....	32
既存の画像ファイルを読み込む .....	33

## コマンド解説

ツールバーのボタン .....	35
[ファイル] メニュー .....	36
[ファイル]-[新規作成] コマンド .....	36
[ファイル]-[開く] コマンド .....	36
[ファイル]-[上書き保存] コマンド .....	36
[ファイル]-[名前を付けて保存] コマンド .....	36
[ファイル]-[インポート] コマンド .....	36
[ファイル]-[テキスト読み込み] コマンド .....	37
[ファイル]-[スキャナの選択] コマンド .....	37
[ファイル]-[スキャナ読み込み] コマンド .....	37
[ファイル]-[印刷] コマンド .....	37
[ファイル]-[印刷プレビュー] コマンド .....	37
[ファイル]-[プリンタの設定] コマンド .....	37
[ファイル]-[環境設定] コマンド .....	38
[ファイル]-[終了] コマンド .....	38
[編集] メニュー .....	39
[編集]-[元に戻す] コマンド .....	39
[編集]-[やり直し] コマンド .....	39
[編集]-[切り取り] コマンド .....	39
[編集]-[コピー] コマンド .....	39
[編集]-[貼り付け] コマンド .....	39
[編集]-[削除] コマンド .....	39
[編集]-[すべて選択] コマンド .....	39

[表示] メニュー .....	40
[表示]-[ズーム]-[ズームイン] コマンド .....	40
[表示]-[ズーム]-[ズームアウト] コマンド .....	40
[表示]-[ズーム]-[倍率指定] コマンド .....	40
[表示]-[画面フィット] コマンド .....	40
[表示]-[ツールバー] コマンド .....	40
[表示]-[図形情報表示] コマンド .....	40
[表示]-[ステータスバー] コマンド .....	40
[表示]-[レイアウト情報] コマンド .....	40
[表示]-[ガイド] コマンド .....	41
[表示]-[グリッド] コマンド .....	41
[表示]-[グリッドにスナップ] コマンド .....	41
[表示]-[グリッドの設定] コマンド .....	41
[書式] メニュー .....	42
[書式]-[フォント] コマンド .....	42
[書式]-[スタイル] コマンド .....	42
[書式]-[文字列方向] コマンド .....	42
[書式]-[行揃え] コマンド .....	42
[書式]-[行間] コマンド .....	42
[書式]-[文字間] コマンド .....	42
[書式]-[線文字] コマンド .....	42
[書式]-[線文字の編集] コマンド .....	43
[書式]-[プロパティ] コマンド .....	43
[図形] メニュー .....	44
[図形]-[プロパティ] コマンド .....	44
[図形]-[塗りつぶし] コマンド .....	50
[図形]-[移動] コマンド .....	51
[図形]-[左右反転] コマンド .....	51
[図形]-[多角形に変換] コマンド .....	51
[図形]-[多角形の結合] コマンド .....	51
[図形]-[多角形の分解] コマンド .....	52
[図形]-[頂点の挿入] コマンド .....	52
[図形]-[頂点の削除] コマンド .....	52
[図形]-[頂点の接続] コマンド .....	52
[図形]-[頂点の切断] コマンド .....	52
[図形]-[近い頂点へスナップ] コマンド .....	52
[図形]-[シンボルの挿入] コマンド .....	53
[図形]-[シンボル登録] コマンド .....	53
[配置] メニュー .....	54
[配置]-[レイアウトの設定] コマンド .....	54
[配置]-[テンプレートの編集] コマンド .....	54
[配置]-[レイアウトに戻る] コマンド .....	54
[配置]-[前面に移動] コマンド .....	54
[配置]-[後面に移動] コマンド .....	55
[配置]-[位置合わせ] コマンド .....	55
[ヘルプ] メニュー .....	55
[ヘルプ]-[目次] コマンド .....	55
[ヘルプ]-[バージョン情報] コマンド .....	55

## こんなときは

こんなときは...	57
エラーメッセージ一覧 .....	57
その他 .....	58

## 付録

SFEditの操作方法 .....	61
1 画面の名前と働き .....	61
2 操作手順 .....	62
Step1: 文字を選ぶ .....	62
Step2: 文字を整形する .....	62
Step3: ファイルを保存する .....	63
3 基本操作 .....	64
4 コマンド解説 .....	67
ツールバーのボタン .....	67
[ファイル]メニュー .....	68
[編集]メニュー .....	70
[表示]メニュー .....	71
[図形]メニュー .....	72
[ヘルプ]メニュー .....	74
5 エラーメッセージ一覧 .....	75
用語 .....	76
索引 .....	77

Windows®, Windows NT® は、米国 Microsoft® Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

TrueType は、米国アップルコンピュータ社の商標です。

CorelDRAW は、COREL Corporation の商標です。

\*

---

はじめに

## Dr.Engrave の動作環境

### 本体

Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、Windows 2000 のいずれかが動作するパーソナルコンピュータ

### CPU

Windows 95 の場合 : i486SX 以上  
(推奨 Pentium 100 MHz 以上)

Windows 98 の場合 : i486DX 以上  
(推奨 Pentium 100 MHz 以上)

Windows Me の場合 : Pentium 150 MHz 以上

Windows NT 4.0 の場合 : i486DX 以上  
(推奨 Pentium 100 MHz 以上)

Windows 2000 の場合 : Pentium 133 MHz 以上

### メモリ

Windows 95 の場合 : 8 Mbyte 以上  
(推奨 16 Mbyte 以上)

Windows 98 の場合 : 16 Mbyte 以上  
(推奨 32 Mbyte 以上)

Windows Me の場合 : 32 Mbyte 以上

Windows NT 4.0 の場合 : 16 Mbyte 以上  
(推奨 32 Mbyte 以上)

Windows 2000 の場合 : 32 Mbyte 以上

### ハードディスク

10 Mbyte 以上の空き容量

## Dr.Engrave の概要

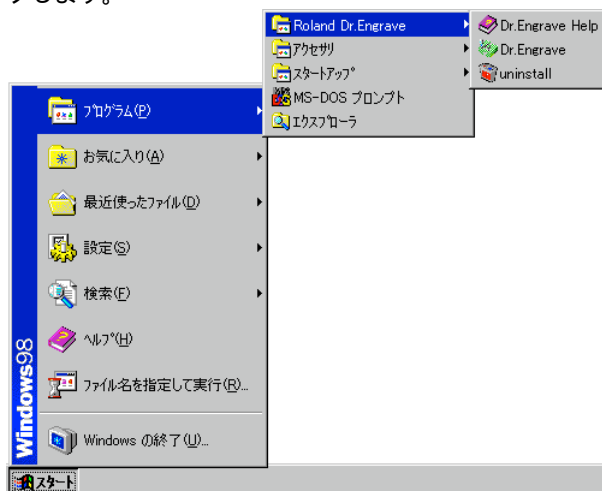
Dr.Engrave は、Windows 上で動作するプレート彫刻用のアプリケーションです。

### Dr.Engrave の主な機能

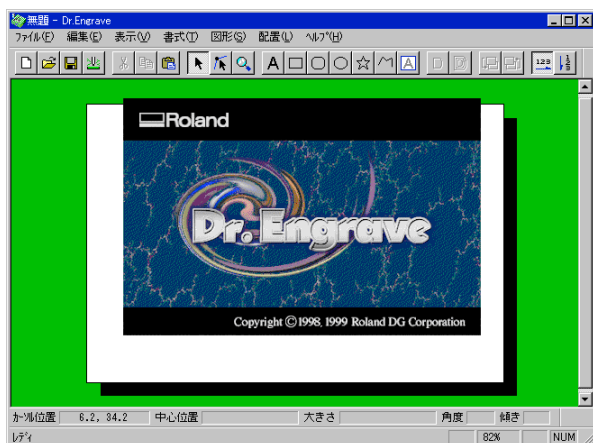
- 複数プレートの配置  
同じデザインのプレートを彫刻機の加工領域内に複数配置することができます。多くのプレートを効率よく作ることが可能です。  
プレートの原盤(マスター)を作り、配置する枚数やプレートの間隔を設定することができます。また、1枚のプレートを分割することもできます。
- テキストファイルの読み込み  
カンマやタブで仕切られたテキストファイルを文字枠に読み込むことができます。テキスト形式の書き出し機能のある表計算ソフトやデータベースソフトで作ったファイルを流用できます。
- 塗りつぶし  
文字や図形の中をさらい加工できます。
- 画像の輪郭抽出  
画像の輪郭を抽出し、線分に変換します。  
画像の入力は、コンピュータに接続された TWAIN 対応のイメージスキャナから画像を読み込む方法と、BMP 形式で保存された画像ファイルを読み込む方法があります。  
また、変換後の図形をシンボルとして登録することもできます。
- 線文字の生成  
TrueType フォントの文字から太さの無い文字(線文字)を自動生成することができます。生成した線文字フォントは、Dr.Engrave の中で Windows に登録されたフォントと同様に扱うことができます。(ただし、他のアプリケーションで使用することはできません。)  
文字を線文字に変えると、アウトライン化された文字に比べて構成する線分が減るため、彫刻をより高速に行うことができます。  
自動生成された線文字を整形することもできます。(線文字の編集機能)
- 文字(TrueType フォント)の輪郭を抽出し表示します。
- 文字(TrueType フォント)を任意の太さ(ウェイト)に設定することができます。
- 長方形、円、星形、多角形(連続直線)などの図形を作ることができます
- オブジェクトの正確な位置配置ができます。(グリッド表示機能)

## Dr.Engrave の起動

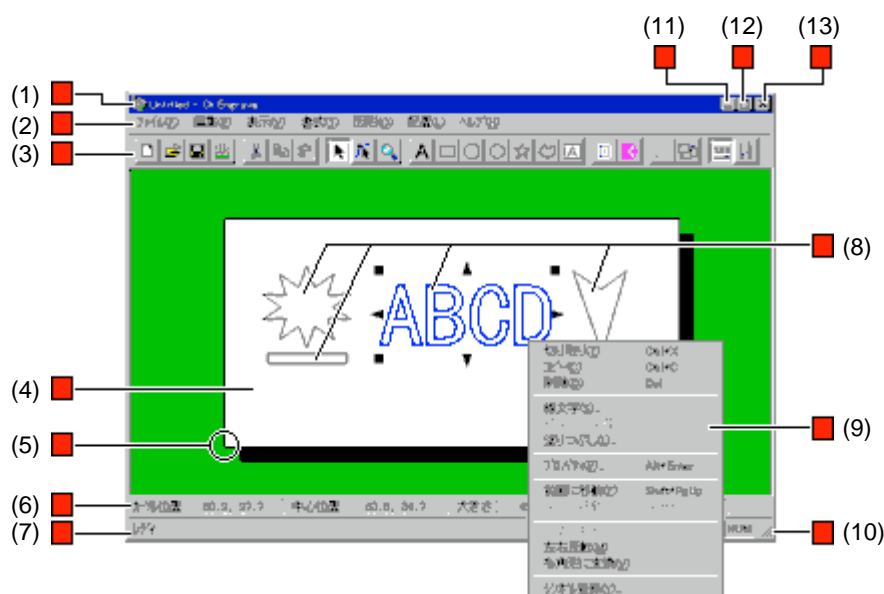
1. [スタート]をクリックし、[プログラム]をポイントします。  
[Roland Dr.Engrave]をポイントし、[Dr.Engrave]をクリックします。



2. オープニング画面が表示され、Dr.Engrave が起動します。



## 画面の名前と働き



### (1) タイトルバー

ファイル名とプログラム名が表示されます。  
ドラッグするとウィンドウの場所を移動することができます。

### (2) メニューバー

Dr.Engrave のさまざまなコマンドを実行します。

### (3) ツールバー

ツールバーには、[開く ...]や[上書き保存]など Dr.Engrave のコマンドを実行するためのボタンが用意されています。マウスポインタをボタンの上に重ねると、そのボタンの機能が確認できます。

### (4) 彫刻領域

この白い四角形は、ドライバで設定した彫刻領域(加工範囲)を示します。

この範囲からはみ出したオブジェクトは彫刻されません。  
彫刻範囲の左下点は Dr.Engrave の原点で、彫刻機の XY 方向の原点(ホームポジション)と一致します。

### (5) 原点

この点(彫刻範囲の左下点)は、Dr.Engrave の原点です。  
彫刻機の XY 方向の原点(ホームポジション)と一致します。

### (6) 図形情報バー

マウスポインタの位置、選択したオブジェクトの中心位置・大きさ・角度・傾きが表示されます。  
複数のプレートを配置しているときは表示されません。

### (7) ステータスバー

Dr.Engrave の作業状態やコマンドの簡単な解説が表示されます。  
線の色、画面の拡大・縮小倍率も表示されます。

### (8) オブジェクト

彫刻する図形や文字列です。

### (9) ポップアップメニュー

編集エリア内でマウスの右ボタンをクリックすると、メニューが表示されます。  
選択したオブジェクトの種類や現在の操作モードに関連するメニューが表示されます。

### (10)

この付近にマウスポインタを合わせると、ポインタの形が斜めの矢印に変わります。ドラッグするとウィンドウのサイズを変更することができます。

### (11) 最小化ボタン

ウィンドウが最小化され、タスクバーのボタンになります。

### (12) 最大化ボタン

ウィンドウが最大化され、画面いっぱいに表示されます。

### (13) 閉じるボタン

プログラムを終了します。  
編集中のファイルの変更内容を保存していないと、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されず。

1

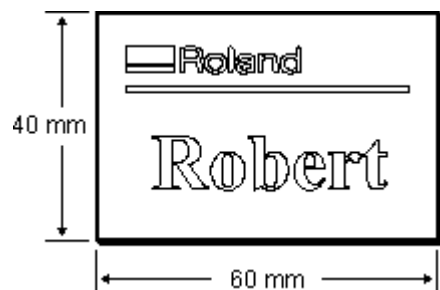


操作手順



# はじめに

図のプレートを彫刻する手順を例に、Dr.Engrave の基本的な操作手順について解説します。

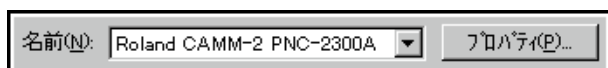


# Step 1: 材料の大きさを 入力する

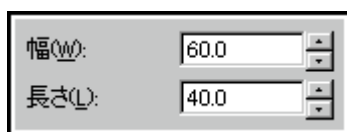
取り付けた材料の大きさ(加工範囲)を設定します。  
設定した加工範囲が、Dr.Engrave の編集領域となります。  
編集領域は、影付きの白い四角形で表示されます。  
編集領域に図形や文字を配置し、プレートをデザインします。  
この範囲からはみ出た部分は彫刻されません。

## Windows 95/98/Me の場合

1. [ファイル]メニューの[プリンタの設定]をクリックします。  
[プリンタの設定]ダイアログボックスが開きます。
2. [プリンタ]の[名前]をクリックし、出力先のドライバを選びます。



3. [プロパティ]ボタンをクリックします。  
ドライバのプロパティが開きます。
4. 加工範囲(彫刻領域)を入力します。  
ここでは、縦 40 mm、横 60 mm の範囲を入力します。

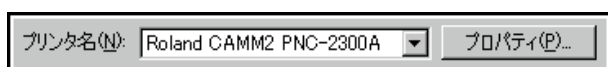


5. [OK]をクリックします。  
ドライバのプロパティが閉じます。
6. [OK]をクリックします。  
[プリンタの設定]ダイアログボックスが閉じます。

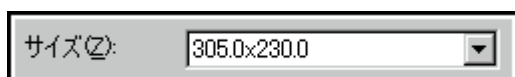
## Windows NT 4.0/2000 の場合

材料の大きさを設定するには、登録されている加工範囲(彫刻領域)から選びます。

1. [ファイル]メニューの[プリンタの設定]をクリックします。  
[プリンタの設定]ダイアログボックスが開きます。
2. [プリンタ]の[プリンタ名]をクリックし、出力先のドライバを選びます。



3. [用紙]の[サイズ]をクリックし、加工範囲(彫刻領域)を選びます。



4. [OK]をクリックします。

手順3で希望の加工範囲が選択肢に表示されないときは、次の方法で加工範囲(彫刻領域)を登録します。

1. [ファイル]メニューの[プリンタの設定]をクリックします。  
[プリンタの設定]ダイアログボックスが開きます。
2. [プリンタ]の[プリンタ名]をクリックし、出力先のドライバを選びます。
3. [プロパティ]ボタンをクリックします。  
ドライバのプロパティが開きます。
4. Windows 2000 の場合は、[レイアウト]タブの[詳細設定]をクリックします。  
Windows NT 4.0 の場合は、[詳細]タブをクリックします。
5. Windows 2000 の場合は、[材料サイズ設定...]をクリックし、[のプロパティ...]をクリックします。  
Windows NT 4.0 の場合は、[ドキュメントのオプション]の[材料サイズ設定]をクリックし、[材料サイズ設定]ボタンをクリックします。  
[材料サイズ設定]ダイアログボックスが開きます。
6. [材料サイズの追加]をクリックします。



7. 加工範囲(彫刻領域)を入力します。  
ここでは、縦 40 mm、横 60 mm の範囲を入力します。
8. [材料サイズ名]に材料サイズの登録名を入力し、[OK]をクリックします。  
名前には半角の英数文字のみを使います。仮名や漢字を使うと登録できません。
9. [OK]をクリックします。  
ドライバのプロパティを閉じます。
10. [OK]をクリックします。  
[プリンタの設定]ダイアログボックスが閉じます。

続けて、加工条件を設定します。

## Step 2: 加工条件を設定する

取り付けた材料の材質・厚さ / カッターの種類に合わせて、カッターの移動速度や切り込み量などの加工条件を設定します。

ドライバで設定できない加工条件(Z0 など)は、彫刻機本体で設定してください。

ここでは、全ての図形や文字列を同じ深さで彫刻する場合の操作手順を紹介します。加工条件設定の詳細は、ドライバのヘルプをご覧ください。

### Windows 95/98/Me の場合

1. ドライバのプロパティで、[ツール]タブをクリックします。
2. [XY 方向の速度]、[Z 方向の速度]に送り速度を入力します。

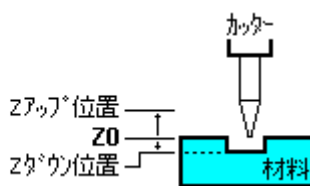
XY方向の速度(X):	Z方向の速度(Z):
2 [mm/s]	2 [mm/s]

速度を速くすると加工が荒くなって、いわゆる「かえり」が彫刻面に残りやすくなります。速度を遅くすると、加工に時間がかかります。また、速度が遅いほど仕上がりがよくなるわけではありません。

加工材料の材質およびカッターの材質・刃先径に最適な速度を設定してください。

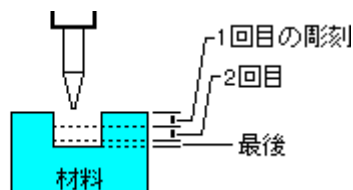
3. [Z アップ位置]、[Z ダウン位置]を入力します。  
Z0 を材料の表面に設定した場合は、図のようになります。

Zアップ位置(U):	1.00 [mm]
Zダウン位置(D):	-0.50 [mm]



4. [Z 切削ピッチ]を入力します。

Z切削ピッチ(Q):	0.20 [mm]
------------	-----------

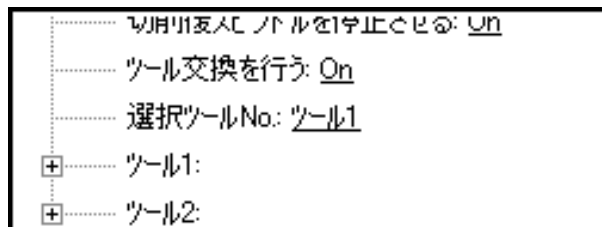


切り込み量を深くすると加工時間が短くなりますが、加工材料の材質により切り込み量には限界があります。1 回の彫刻で彫刻できない深さの場合は、何回かに分けて加工し、切り込み量の限界を超えないように注意してください。

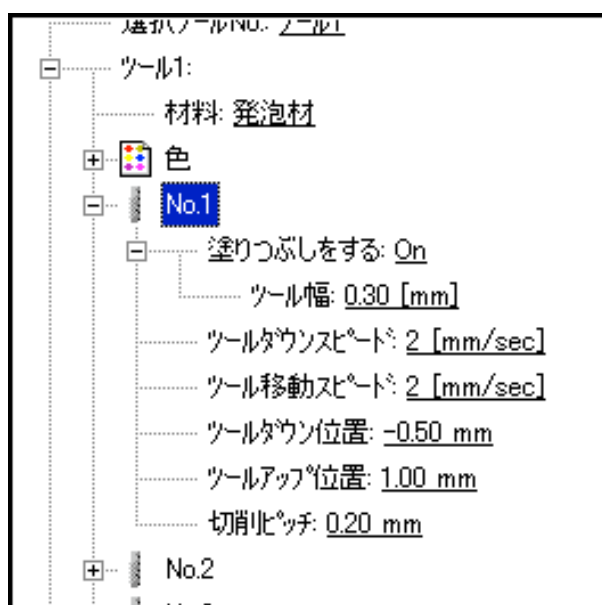
5. [OK]ボタンをクリックします。  
続けて[OK]をクリックし、[プリンタの設定]ダイアログボックスを閉じます。

### Windows NT 4.0/2000 の場合

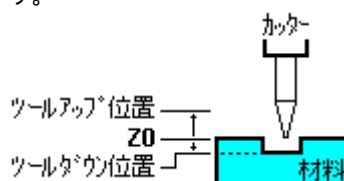
1. ドライバのプロパティを開きます。
2. Windows 2000 のときは[詳細設定]をクリックします。  
Windows NT 4.0 のときは[詳細]タブをクリックします。
3. [選択ツールNo.]をクリックし、ツール1 を選びます。



4. [ツール1]をダブルクリックします。
5. [No.1]をダブルクリックします。

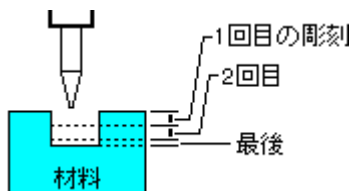


6. [ツール移動スピード]、[ツールダウンスピード]に送り速度を入力します。  
速度を速くすると加工が荒くなって、いわゆる「かえり」が彫刻面に残りやすくなります。速度を遅くすると、加工に時間がかかります。また、速度が遅いほど仕上がりがよくなるわけではありません。  
加工材料の材質およびカッターの材質・刃先径に最適な速度を設定してください。
7. [ツールアップ位置]、[ツールダウン位置]を入力します。  
Z0 を材料の表面に設定した場合は、図のようになります。



## 8. [切削ピッチ]を入力します。

切り込み量を深くすると加工時間が短くなりますが、加工材料の材質により切り込み量には限界があります。1回の彫刻で彫刻できない深さの場合は、何回かに分けて加工し、切り込み量の限界を超えないように注意してください。







## 9. [OK]を数回クリックし、[プリンタの設定]ダイアログボックスを閉じます。

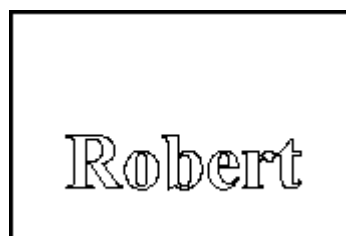
## Step 3: 文字を入力する

彫刻する文字列を入力します。

入力した文字列は、アウトライン化されて文字の輪郭が表示されます。Dr.Engrave で使用できるフォントは Windows に登録されている **TrueType フォント** と独自に作成した線文字フォントです。

ここでは、Robert と入力し、フォントを Times New Roman に設定します。


1.  ボタンをクリックします。  
マウスポインタが文字編集ツール (  ) に変わります。
2. 文字入力の開始点をクリックします。
3. キーボードから Robert と入力します。
4.  ボタンをクリックします。
5. [書式]メニューの[フォント]をクリックします。  
[フォントの選択]ダイアログボックスが開きます。
6. フォントをクリックして選び、[OK]をクリックします。  
ここでは、[Times New Roman]を選びます。
7. 文字列の周りに表示されているポイント(  )をドラッグして、文字列の大きさを変えます。  
文字列の大きさを等倍に拡大 / 縮小するには、[Shift]キーを押しながらドラッグします。
8. 文字列をドラッグして、目的の位置に配置します。  
ここでは、図の位置に配置します。

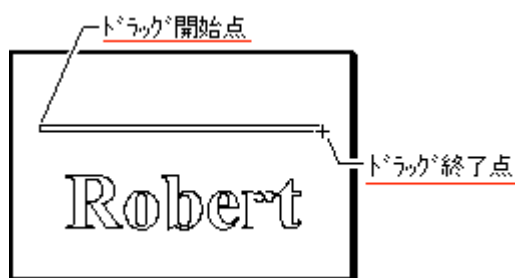


## Step 4: 図形を描く

データに図形を追加します。ここでは、長細い長方形を描きます。

Dr.Engrave は、長方形の他に「角丸の長方形」、「円・楕円」、「星形」、「多角形(連続直線)」を描くことができます。

1.  ボタンをクリックします。  
マウスポインタが選択ツール (☛) から図形描画ツール (+) に変わります。
2. 図のようにドラッグします。



## Step 5: 画像ファイルを 読み込む

既存の画像データを読み込み、輪郭を抽出して線分に変換することができます。

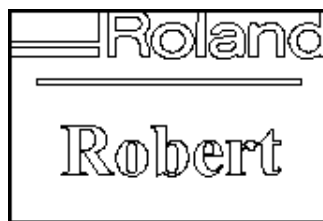
例えば、会社や団体のロゴデータをプレートに含めることが可能です。


ここでは、あらかじめスキャナで取り込んでおいた画像ファイル(Windows Bitmap 形式)を線分に変換する手順を解説します。

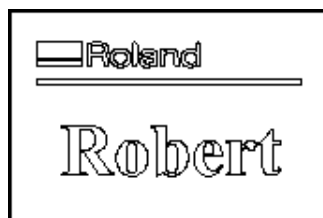
1. [ファイル]メニューの、[インポート]をクリックします。  
[ファイルを開く]ダイアログボックスが開きます。
2. [ファイルの種類]をクリックし、[Windows Bitmap File (\*.bmp)]を選択します。  
一覧にインポート可能なファイルが表示されます。



3. 画像ファイルが保存されている場所を指定します。  
ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
4. プレビュー画面に、読み込んだ画像が表示されます。内容を確認して、[OK]をクリックします。  
カラー画像の場合、色によってうまくアウトラインを抽出できないことがあります。そのときは、[画像の濃度調整]のスライダーをドラッグして画像の濃さを調整するか、「[既存の画像ファイルを読み込む](#)」を参考に市販のソフトウェアでデータを修正してください。
5. 画面にアウトライン化されたオブジェクトが配置されます。




6.  ボタンをクリックします。
7. オブジェクトをクリックします。
8. オブジェクトの周りに表示されているポイント( )をドラッグして、オブジェクトの大きさを変えます。  
オブジェクトの大きさを等倍に拡大/縮小するには、[Shift]キーを押しながらドラッグします。
9. オブジェクトをドラッグして、目的の位置に配置します。ここでは、図の位置に配置します。



## Step 6: ファイルを保存する


できあがったデータをファイルに保存します。

1.  ボタンをクリックします。  
[名前を付けて保存]ダイアログボックスが開きます。
2. ファイルの保存先を指定します。
3. ファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックします。

## Step 7: 彫刻を始める

データを出力し、彫刻を開始します。

彫刻の前にケーブルの接続、材料の取り付け、材料の取り付け位置、カッターの取り付け、原点の設定を確認してください。詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。

1.  ボタンをクリックします。  
[印刷] ダイアログボックスが開きます。
2. [OK]ボタンをクリックします。  
彫刻データが彫刻機に送られ、動作を始めます。

### 彫刻を途中でやめるときは



1. 彫刻機を一時停止(ポーズ)状態にします。  
詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。
2. Windows の[スタート]ボタンをクリックします。
3. [設定]をポイントし、[プリンタ]をクリックします。
4. プリンタドライバのアイコンをダブルクリックします。
5. [プリンタ]メニューの[印刷ジョブのクリア]または[印刷ドキュメントの削除]をクリックします。  
(Windows 2000 の場合は、[すべてのドキュメントの取り消し]をクリックします。)  
彫刻中のファイルがリストから削除されます。彫刻中のファイルが表示されないときは、すでにデータを送り終わっています。
6. 彫刻機を操作して、作業を終了させます。  
詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。

# 2

---

## オブジェクトの 基本操作

## オブジェクトを選択する

1.  ボタンをクリックします。
2. 選択するオブジェクトの上にマウスを移動し、クリックします。
3. 選択されたオブジェクトは、オブジェクトの周りに  とのマークが表示されます。




オブジェクトが選ばれているときに[Tab]キーを押すと、別のオブジェクトが選択されます。オブジェクトの選択順を逆にするには、[Shift]キーを押しながら[Tab]キーを押します。


### 複数のオブジェクトを選択する

- ・[Shift]キーを押したまま、選択したいオブジェクトをクリックします。
- ・選択したいオブジェクト全体を囲むようにドラッグします。




## オブジェクトの選択を解除する


1.  ボタンをクリックします。
2. 選択されているオブジェクト以外の場所をクリックします。

## オブジェクトを水平・垂直に移動する

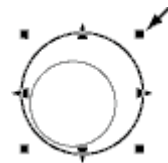
1.  ボタンをクリックします。
2. オブジェクトをクリックして選択します。
3. [Shift]キーを押したまま、オブジェクトを上下左右にドラッグします。


## オブジェクトのサイズを変える

1.  ボタンをクリックします。
2. オブジェクトをクリックして選択します。
3. オブジェクトの周りに表示されているポイント(  や  )をドラッグし、大きさを変えます。


四角のポイント(  )をドラッグすると、サイズを自由に変更できます。

[Shift]キーを押しながらドラッグすると、図形の縦横比を保ったままサイズを変更できます。






左右の三角のポイント(  )をドラッグすると、水平方向にサイズを変更できます。

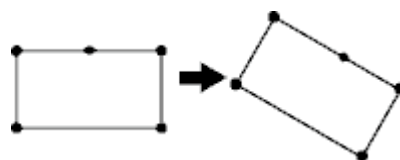


上下の三角のポイント(  )をドラッグすると、垂直方向にサイズを変更できます。



## オブジェクトの回転


1.  ボタンをクリックします。
2. オブジェクトをクリックして選択します。
3. オブジェクトをもう1回クリックします。  
オブジェクトの周りに丸のポイント(  )が表示されます。
4. 丸のポイント(  )をドラッグすると、オブジェクトが回転します。

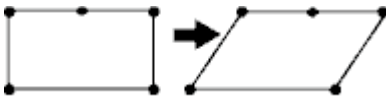




## オブジェクトの傾斜

文字枠は傾斜できません。


1.  ボタンをクリックします。
2. オブジェクトをクリックして選択します。
3. オブジェクトをもう1回クリックします。  
オブジェクトに菱形のポイント( )が表示されます。  
文字列の場合は、傾斜バーが表示されます。
4. 菱形のポイント( )をドラッグすると、オブジェクトが傾きます。




文字列の場合は、傾斜バーのポイント( )をドラッグします。






## オブジェクトの削除

1.  ボタンをクリックします。
2. 削除するオブジェクトをクリックして選択します。
3. [編集]メニューの[削除]をクリックします。ボタンをクリックします。


## 多角形(連続直線)の頂点を選択する

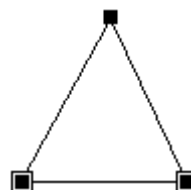
1.  ボタンをクリックします。
2. 多角形(連続直線)をクリックします。
3. 頂点をクリックします。  
選択された頂点が枠付きの四角形(■)になります。  
頂点を選ばれているときに[Tab]キーを押すと、別の頂点を選択されます。頂点の選択順を逆にするには、[Shift]キーを押しながら[Tab]キーを押します。

## オブジェクトの複製




1.  ボタンをクリックします。
2. 複製元のオブジェクトをクリックして選択します。
3.  ボタンをクリックします。
4.  ボタンをクリックします。  
新たなオブジェクトがコピーされ、複製元のオブジェクトに重なります。
5. 複製されたオブジェクトをドラッグし、目的の場所へ移動します。

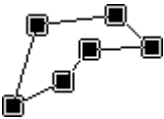
## 多角形(連続直線)の複数の頂点を選択する

1.  ボタンをクリックします。
2. 多角形(連続直線)をクリックします。
3. [Shift]キーを押しながら、頂点( )をクリックします。  
または、頂点を囲むようにドラッグします。  
選択された頂点が枠付きの四角形(■)になります。





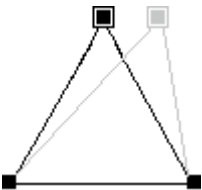
## 多角形(連続直線)の全ての頂点を選択する

1.  ボタンをクリックします。
2. 多角形(連続直線)をクリックします。
3. [Ctrl]キーを押しながら、1つの頂点(  )をクリックします。  
多角形(連続直線)に含まれる全ての頂点が枠付きの四角形(  )に変わります。





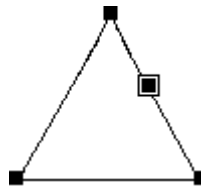
## 多角形(連続直線)の頂点を水平・垂直に移動する

1.  ボタンをクリックします。
2. 多角形(連続直線)をクリックします。
3. [Shift]キーを押したまま、頂点(  )を上下左右にドラッグします。






## 多角形(連続直線)の頂点を追加する

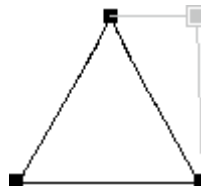
1.  ボタンをクリックします。
2. 多角形(連続直線)をクリックします。
3. 多角形(連続直線)の線上にマウスポインタを移動し、クリックします。  
頂点の追加場所(  )が表示されます。
4. [図形]メニューの[頂点の挿入]をクリックします。



図形の線上でダブルクリックし、頂点を追加することもできます。

## 多角形(連続直線)の頂点を削除する

1.  ボタンをクリックします。
2. 多角形(連続直線)をクリックします。
3. 頂点をクリックします。  
選択された頂点が枠付きの四角形(  )に変わります。  
複数の頂点を削除するには、[Shift]キーを押しながら頂点(  )をクリックします。または、頂点を囲むようにドラッグします。
4. [図形]メニューの[頂点の削除]をクリックします。



3

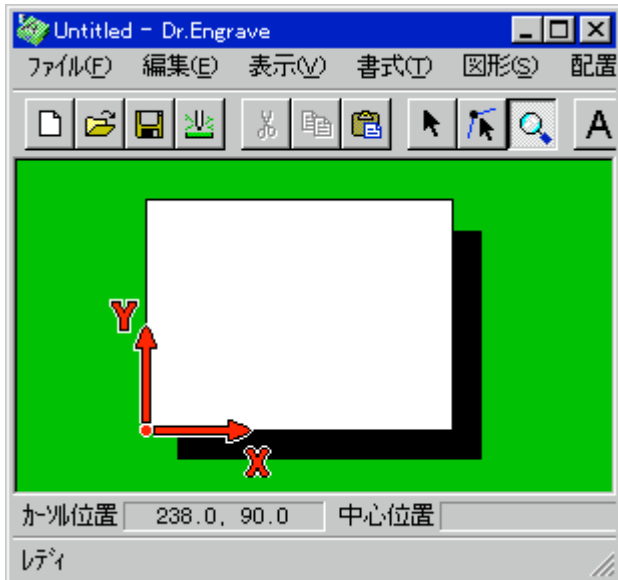


ヒントとテクニック

## 彫刻の原点について

Dr.Engrave の原点は、次の図の通りです。

原点の位置は常に彫刻領域の左下点で、変更することはできません。




Dr.Engrave の原点は、彫刻機の XY 方向の原点(ホームポジション)と一致します。

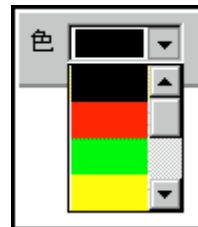
## 彫刻の深さを変える

オブジェクト別に彫刻の深さを変えるには、線(あるいは塗り)の色を変えます。

各色の深さは、彫刻機のドライバで設定することができます。設定方法については、ドライバのヘルプをご覧ください。

オブジェクトの線(あるいは塗り)の色を変えるには、次の操作を行います。

1.  ボタンをクリックします。
2. オブジェクトをクリックします。
3. [図形]メニューの[プロパティ]をクリックします。  
選択されたオブジェクトのプロパティダイアログボックスが開きます。
4. [色]の下矢印をクリックし、指定する色をクリックします。



### ■ 関連項目

[文字列のプロパティ](#)

[図形のプロパティ](#)

[多角形のプロパティ](#)

[文字枠のプロパティ](#)

# 同じサイズのプレートを並べて一度に彫刻する

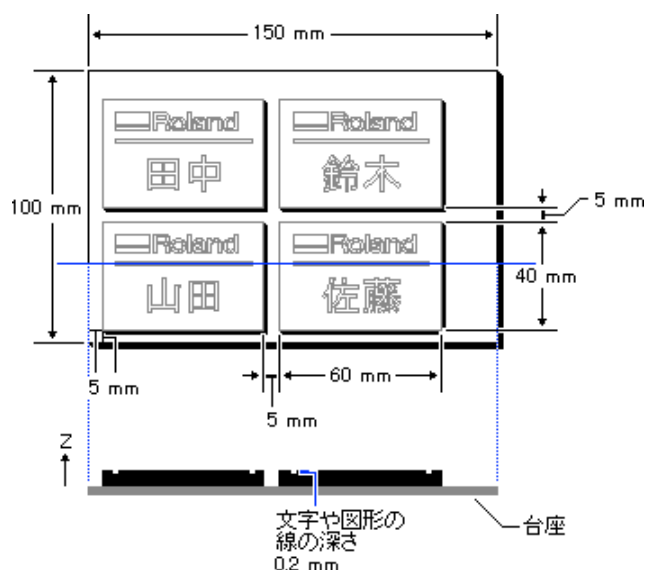
カットされた同じ大きさのプレートを彫刻機の加工テーブルに並べて置き、一度に彫刻する方法を紹介します。  
ここでは、150 mm × 100 mm の台座の上に 60 mm × 40 mm のプレートを 4 枚取り付け、プレートをとり替えて合計 8 枚のプレートを彫刻する例をあげます。

Step 1 から Step 3 の 3 段階に分けて説明します。

Step 1：テンプレートファイルを作る

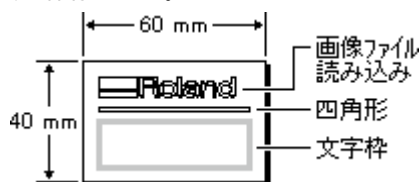
Step 2：プレートを配置し、文字を入力する

Step 3：彫刻機の準備をし、彫刻を始める



## Step 1: テンプレートファイルを作る

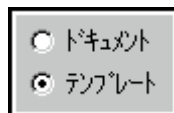
一枚分のプレートデータを作り、テンプレートファイルの形式で保存します。



1. [ファイル]メニューの[新規作成]をクリックします。  
[新規作成]ダイアログボックスが開きます。
2. [標準]タブをクリックし、[新規ファイル]をクリックします。

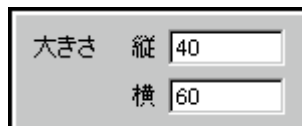


3. [テンプレート]をクリックしてオンにし、[OK]をクリック




[テンプレートのプロパティ]ダイアログボックスが開きます。

4. プレートのサイズを入力し、[OK]をクリックします。  
ここでは、次のように入力します。




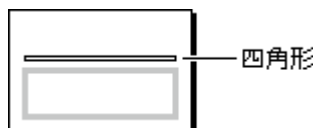
何も入力されていない空白のファイルが開きます。

5.  ボタンをクリックし、図の文字枠を作ります。




6. 文字枠の文字の大きさやフォントの種類などを設定します。  
プレートを配置した後で設定することもできます。その場合は、[配置]メニューの[テンプレートの編集]を利用します。ここでは事前に文字の設定をしておきます。  
文字枠を選び、[図形]メニューの[プロパティ]をクリックします。
7. 文字の大きさや配置、フォントの種類など必要な項目を設定し、[OK]をクリックします。  
通常文字の大きさは、文字枠の大きさを越えないように設定します。

8.  ボタンをクリックし、図の四角形を作ります。



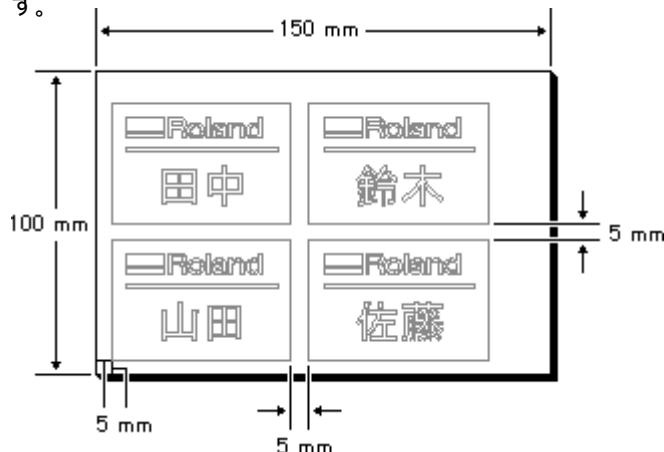
9. 図の画像ファイルを読み込みます。  
詳しくは、[既存の画像ファイルを読み込む](#)または[スキャナを使って画像を読み込む](#)を参照してください。



10.  ボタンをクリックし、ファイルを保存します。

## Step 2: プレーートを配置し、文字を入力する

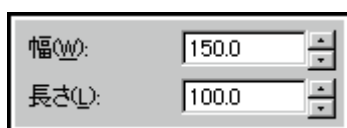
Step1 で作成したプレーートを配置し、文字枠に文字を入力します。



1. [配置]メニューの[レイアウトの設定]をクリックします。  
[レイアウトの設定]ダイアログボックスが開きます。
2. 図のように設定し、[OK]をクリックします。



3. プレーートをセットする台座の大きさを入力します。  
[ファイル]メニューの[プリンタの設定]をクリックします。  
[プリンタの設定]ダイアログボックスが開きます。
4. [プロパティ]をクリックします。  
ドライバのプロパティが開きます。
5. 彫刻領域に台座のサイズを入力し、[OK]をクリックします。  
ここでは、次のように入力します。



6. [OK]をクリックし、[プリンタの設定]ダイアログボックスを閉じます。

7. **A** ボタンをクリックします。

8. 文字枠をクリックし、文字を入力します。  
ここでは、図のように入力します。




9. レイアウト情報バーの[次ページ]ボタンをクリックし、2ページ目を表示させます。



10. 文字枠をクリックし、文字を入力します。  
ここでは、図のように入力します。



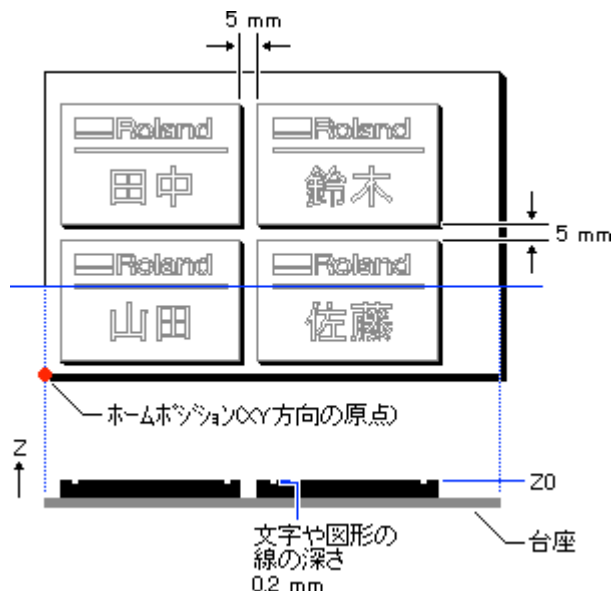
11.  ボタンをクリックし、ファイルを保存します。

### ■ 関連項目

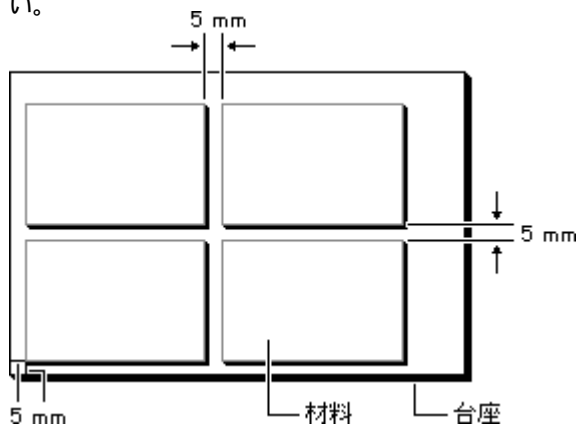
[文字枠にテキストファイルを読み込む](#)  
[日本語を入力する](#)


## Step 3: 彫刻機の準備をし、 彫刻を始める

彫刻機に Cutter と材料を取り付け、加工を始めます。



1. 彫刻機にCutterと材料を取り付けます。  
台座を彫刻機の加工テーブルにセットし、材料を図の位置に取り付けます。  
詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。



2. 彫刻機を操作して、材料の表面に Z0 を設定します。  
また、台座の左下点にホームポジション(XY 方向の原点)を設定します。  
詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。
3.  ボタンをクリックします。  
[印刷] ダイアログボックスが開きます。
4. 取り付けた材料の材質・厚さ / Cutter の種類に合わせて、Cutter の移動速度や切り込み量などの加工条件を設定します。  
[プロパティ] をクリックします。  
ドライバのプロパティが開きます。
5. [ツール] タブをクリックします。

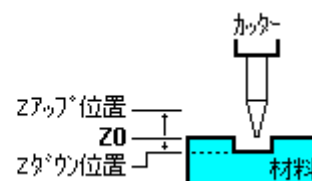
6. [XY 方向の速度]、[Z 方向の速度] に送り速度を入力します。

XY 方向の速度(X):	Z 方向の速度(Z):
2 [mm/s]	2 [mm/s]

速度を速くすると加工が荒くなって、いわゆる「かえり」が彫刻面に残りやすくなります。速度を遅くすると、加工に時間がかかります。また、速度が遅いほど仕上がりがよくなるわけではありません。  
加工材料の材質およびCutterの材質・刃先径に最適の速度を設定してください。

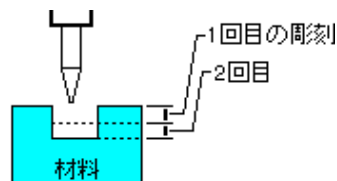
7. [Z アップ位置]、[Z ダウン位置] を入力します。

Z アップ位置(U):	Z ダウン位置(N):
0.50 [mm]	-0.20 [mm]



8. [Z 切削ピッチ] を入力します。

Z 切削ピッチ(P):
0.10 [mm]



切り込み量を深くすると加工時間が短くなりますが、加工材料の材質により切り込み量には限界があります。1 回の彫刻で彫刻できない深さの場合は、何回かに分けて加工し、切り込み量の限界を超えないように注意してください。

9. [OK] をクリックし、ドライバのプロパティを閉じます。
10. [OK] をクリックします。  
彫刻データが彫刻機に送られ、動作を始めます。
11. 1 ページ目の彫刻データを出力し終わると、材料交換のメッセージが表示されます。  
彫刻機の動作が止まるのを確認し、台座に新しい材料をセットします。手順 1 の図と同じ場所にセットしてください。必要であれば、取り付けた材料の表面に Z0 を再設定します。
12. 材料取り付け後、[OK] をクリックします。  
2 ページ目の彫刻データが彫刻機に送られ、動作を始めます。

■ 関連項目  
[任意のプレートを再加工する](#)

# 一枚のプレートを分割して 複数のプレートを作る

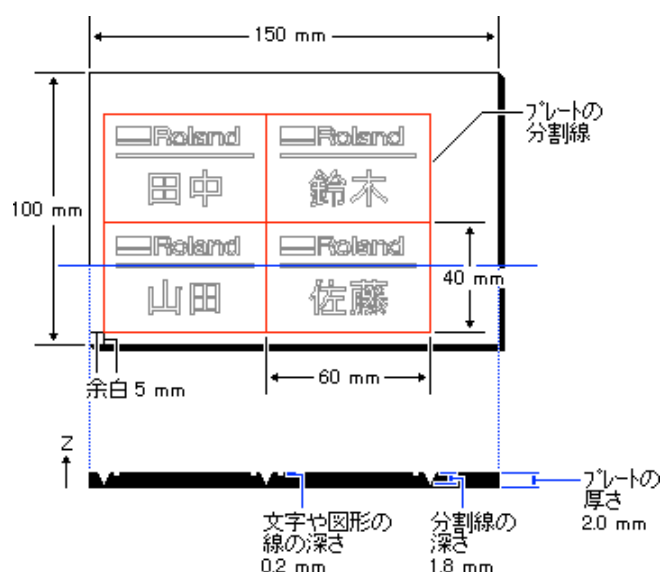
一枚のプレートを彫刻機の加工テーブルに置き、プレートを分割しながら複数枚彫刻する方法を紹介します。  
ここでは、150 mm × 100 mm のプレートに、60 mm × 40 mm の同じデザインのプレートを4枚彫刻する例をあげます。

Step 1 から Step 3 の3段階に分けて説明します。

Step 1：テンプレートファイルを作る

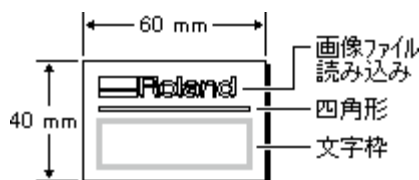
Step 2：プレートを配置し、文字を入力する

Step 3：彫刻機の準備をし、彫刻を始める



## Step 1: テンプレート ファイルを作る

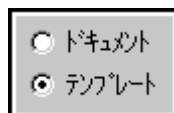
一枚分のプレートデータを作り、テンプレートファイルの形式で保存します。



1. [ファイル]メニューの[新規作成]をクリックします。  
[新規作成]ダイアログボックスが開きます。
2. [標準]タブをクリックし、[新規ファイル]をクリックします。

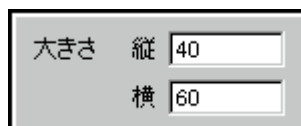


3. [テンプレート]をクリックしてオンにし、[OK]をクリック




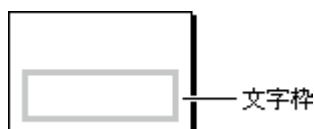
[テンプレートのプロパティ]ダイアログボックスが開きます。

4. プレートのサイズを入力し、[OK]をクリックします。  
ここでは、次のように入力します。




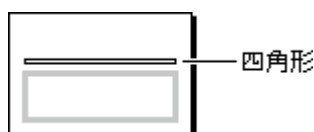
何も入力されていない空白のファイルが開きます。

5.  ボタンをクリックし、図の文字枠を作ります。




6. 文字枠の文字の大きさやフォントの種類などを設定します。  
プレートを配置した後で設定することもできます。その場合は、[配置]メニューの[テンプレートの編集]を利用します。ここでは事前に文字の設定をしておきます。  
文字枠を選び、[図形]メニューの[プロパティ]をクリックします。
7. 文字の大きさや配置、フォントの種類など必要な項目を設定し、[OK]をクリックします。  
通常文字の大きさは、文字枠の大きさを越えないように設定します。

8.  ボタンをクリックし、図の四角形を作ります。



9. 図の画像ファイルを読み込みます。  
詳しくは、[既存の画像ファイルを読み込む](#)または[スキャナを使って画像を読み込む](#)を参照してください。

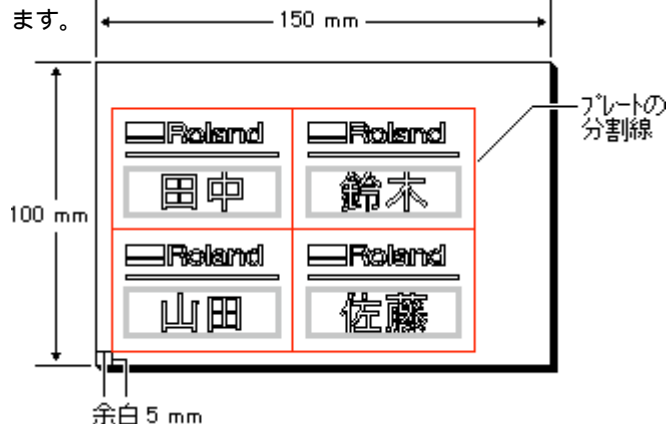


10.  ボタンをクリックし、ファイルを保存します。

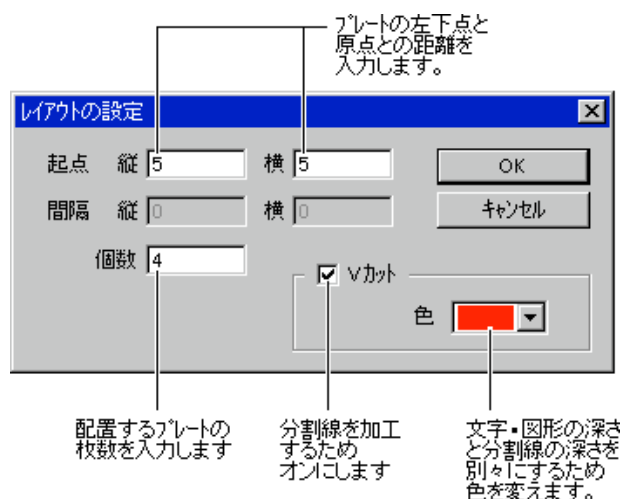


## Step 2: プレートを配置し、文字を入力する

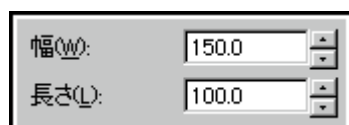
Step1 で作成したプレートを配置し、文字枠に文字を入力します。



1. [配置]メニューの[レイアウトの設定]をクリックします。  
[レイアウトの設定]ダイアログボックスが開きます。
2. 図のように設定し、[OK]をクリックします。




3. 彫刻するプレート全体の大きさを入力します。  
[ファイル]メニューの[プリンタの設定]をクリックします。  
[プリンタの設定]ダイアログボックスが開きます。
4. [プロパティ]をクリックします。  
ドライバのプロパティが開きます。
5. 彫刻領域にプレートのサイズを入力し、[OK]をクリックします。  
ここでは、次のように入力します。



6. [OK]をクリックし、[プリンタの設定]ダイアログボックスを閉じます。
7. **A** ボタンをクリックします。

8. 文字枠をクリックし、文字を入力します。  
ここでは、図のように入力します。



9.  ボタンをクリックし、ファイルを保存します。

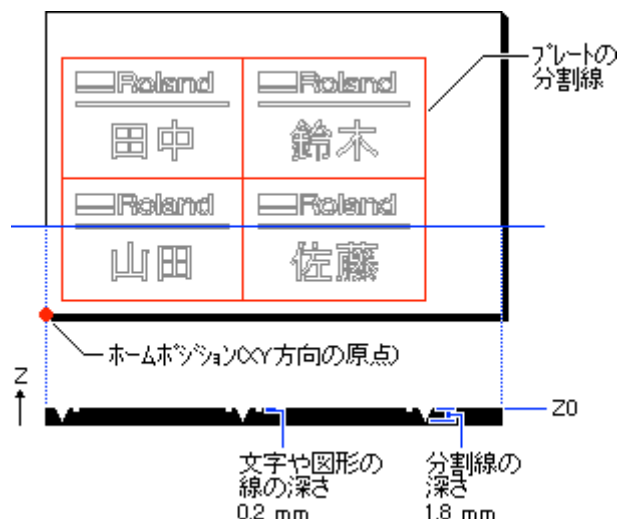
### ■ 関連項目


[日本語を入力する](#)

[文字枠にテキストファイルを読み込む](#)

## Step 3: 彫刻機の準備をし、彫刻を始める

彫刻機にカッターと材料を取り付け、加工を始めます。



1. 彫刻機にカッターと材料を取り付けます。  
詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。
2. 彫刻機を操作して、材料の表面に Z0 を設定します。  
また、材料の左下点にホームポジション(XY 方向の原点)を設定します。  
詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。
3.  ボタンをクリックします。  
[印刷] ダイアログボックスが開きます。

4. 取り付けた材料の材質・厚さ / カッターの種類に合わせて、カッターの移動速度や切り込み量などの加工条件を設定します。

[プロパティ]をクリックします。

ドライバのプロパティが開きます。

5. [ツール]タブをクリックします。

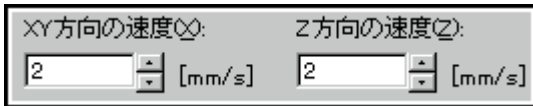
6. 図形や文字の線の色は「黒」、分割線の色は「赤」に設定されています。

各色に異なった加工条件を設定します。

7. 黒色のタブをクリックし、ツール番号を指定します。



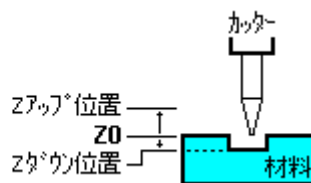
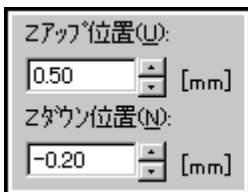
8. [XY方向の速度]、[Z方向の速度]に送り速度を入力します。



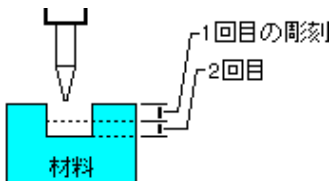
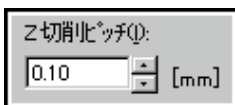
速度を速くすると加工が荒くなって、いわゆる「かえり」が彫刻面に残りやすくなります。速度を遅くすると、加工に時間がかかります。また、速度が遅いほど仕上がりがよくなるわけではありません。

加工材料の材質およびカッターの材質・刃先径に最適の速度を設定してください。

9. [Z アップ位置]、[Z ダウン位置]を入力します。



10. [Z 切削ピッチ]を入力します。



切り込み量を深くすると加工時間が短くなりますが、加工材料の材質により切り込み量には限界があります。1回の彫刻で彫刻できない深さの場合は、何回かに分けて加工し、切り込み量の限界を超えないように注意してください。

11. 分割線の加工条件を設定します。

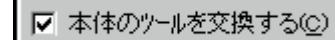
赤色のタブをクリックし、ツール番号を指定します。



12. 手順 8 ~ 11 の設定を行います。

[Z ダウン位置]には、1.8 mm を入力します。

13. 加工途中でカッターを交換するときは、[本体のツールを交換する]をオンにします。



14. [OK]をクリックし、ドライバのプロパティを閉じます。

15. [OK]をクリックします。

彫刻データが彫刻機に送られ、動作を始めます。

#### ■ 関連項目

[任意のプレートを再加工する](#)

## 任意のプレートを再加工する

複数のプレートを配置して彫刻を行った後、任意のプレートを再加工する手順を紹介します。

一部の彫刻に失敗したときや、文字入力に失敗に気づかず  
に彫刻してしまったときなど、失敗したプレートのみを選んで再加工することができます。

1. 目的のファイルを開きます。
2. レイアウト情報バーのページ送りボタンをクリックして、修正したいプレートを含むページを表示させます。



3. データを修正します。



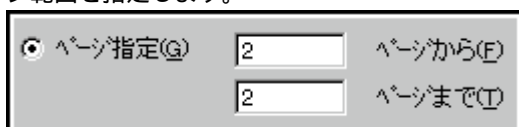
4. ボタンをクリックします。
5. 再加工するプレートをクリックします。  
プレートの輪郭が選択され、青色に変わります。  
複数のプレートを選ぶには、[Shift]キーを押しながらプレートをクリックします。



6. 彫刻機に Cutter と材料を取り付けます。  
詳細は、彫刻機のユーザーズマニュアルをご覧ください。



7. ボタンをクリックします。  
[印刷] ダイアログボックスが開きます。
8. [印刷範囲]の[ページ指定]をオンにし、再加工するページ範囲を指定します。



9. [OK]をクリックします。  
指定したプレートの彫刻データのみが彫刻機に送られ、動作を始めます。

## 文字枠にテキストファイルを読み込む

表計算やデータベースソフトで作成したデータを利用して、文字枠に文字を読み込む方法をご紹介します。

1. 表計算やデータベースソフトを使って、文字枠に読み込むテキストファイルを書き出します。  
フィールドの区切り文字は、カンマかタブを選んでください。それ以外の区切り文字は、Dr.Engrave で判別することができません。詳しくは、表計算またはデータベースソフトの説明書を参照してください。
2. 文字枠を含むテンプレートファイルを開きます。
3. 文字枠の文字の大きさやフォントの種類などを設定します。  
文字を読み込んだ後で設定することもできます。その場合は、[配置]メニューの[テンプレートの編集]を利用します。ここでは事前に文字の設定をしておきます。  
文字枠を選び、[図形]メニューの[プロパティ]をクリックします。
4. 文字の大きさや配置、フォントの種類など必要な項目を設定し、[OK]をクリックします。  
通常文字の大きさは、文字枠の大きさを越えないように設定します。



5. ボタンをクリックし、テンプレートファイルを保存します。
6. [配置]メニューの[レイアウトの設定]をクリックします。  
[レイアウトの設定]ダイアログボックスが開きます。
7. 必要なレイアウト情報を入力します。  
プレートの配置枚数をレコードと同じ数にする必要はありません。プレート枚数は、レコードを読み込んだときにレコードと同じ数に調整されます。
8. [OK]をクリックします。  
テンプレートの配置モードになります。
9. [ファイル]メニューの[テキスト読み込み]をクリックします。  
[ファイルを開く]ダイアログボックスが開きます。
10. 手順1で用意したテキストファイルを選択し、[OK]をクリックします。  
[テキスト読み込みウィザード]が開きます。
11. フィールドの区切り文字をクリックし、[次へ]をクリックします。
12. 文字枠にどのフィールドデータを読み込ませるかを設定します。  
フィールドの文字をドラッグし、読み込み先の文字枠に重ねます。  
設定が終わったら、[次へ]をクリックします。
13. 文字枠に読み込むレコードを選びます。  
全てのレコードを読み込むには、[すべて選択]をクリックします。
14. レコードの選定が終わったら、[完了]をクリックします。  
文字枠にテキストファイルの内容が入力されます。

## 文字の彫刻を高速化する

文字を線文字に変えると、アウトライン化された文字に比べて構成する線分が減るため、彫刻をより高速に行うことができます。



1. 線文字に変換する文字列を選択します。
2. [図形]メニューの[線文字]をクリックします。  
[ストロークフォントの選択]ダイアログボックスが開きます。
3. [ストロークフォント名]の下矢印をクリックしてフォントを選択し、[OK]をクリックします。  
新規の線文字フォントを登録するには、テキストボックスをクリックして新規のフォント名を入力します。
4. 画面に線文字化された文字が配置されます。

### ■ 関連項目

[\[書式\] - \[線文字の編集\] コマンド](#)

## 縦横比が 1:1 の図形(真円や正方形など)を作る

真円、正方形などの縦横比が 1:1 の図形を作るには、[Shift]キーを押しながらドラッグします。  
この機能は、文字列と多角形(連続直線)の作成には利用できません。

1. 四角形、角の丸い四角形、円・楕円、星形のいずれかの図形作成ボタンをクリックします。
2. [Shift] キーを押したまま、ドラッグします。



### ■ 関連項目

[オブジェクトのサイズを変える](#)  
[文字列のプロパティの \[縦横比\]](#)  
[多角形のプロパティの \[縦横比\]](#)

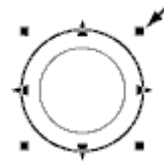
## 中心位置を変えずに大きさを変える

オブジェクトの中心位置を保ったまま大きさを変えるには、[Ctrl]キーを押したまま編集ポイント( )をドラッグします。

1. オブジェクトを選択します。
2. [Ctrl]キーを押したまま、ポイント( )をドラッグします。

四角のポイント( )をドラッグすると、サイズを自由に変更できます。

[Shift]キーを押しながらドラッグすると、図形の縦横比を保ったままサイズを変更できます。



左右の三角のポイント( )をドラッグすると、水平方向にサイズを変更できます。



上下の三角のポイント( )をドラッグすると、垂直方向にサイズを変更できます。



### ■ 関連項目

[オブジェクトのサイズを変える](#)

## 図形を中心点から描き始める

図形を中心点を開始点にして図形を作るには、[Ctrl]キーを押しながらドラッグします。  
この機能は、文字列と多角形(連続直線)の作成には利用できません。


1. 四角形、角の丸い四角形、円・楕円、星形のいずれかの図形作成ボタンをクリックします。
2. [Ctrl] キーを押したまま、ドラッグします。

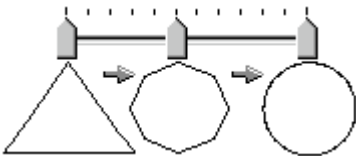
### ■ 関連項目

[縦横比が 1:1 の図形\(真円や正方形など\)を作る](#)

## 正多角形を作る

真円を作成して変形させると、正多角形を作ることができます。

1.  ボタンをクリックします。
2. [Shift]キーを押しながらドラッグし、真円を作ります。
3. 円を選択し、[図形]メニューの[プロパティ]をクリックします。  
[図形のプロパティ]ダイアログボックスが開きます。
4. [形]のスライダーをドラッグします。  
三角形から十三角形までの正多角形を作ることができます。スライダーを右端にドラッグすると、多角形ではなく円になります。



## オブジェクトの位置を中心点で揃える

長方形の中心に文字列を配置するときや、同心円を作成するときは、[配置]メニューの[位置合わせ] コマンドを利用します。



1. 任意の場所にオブジェクトを作成します。
2. 目的のオブジェクトを**全て選択**します。
3. [配置]メニューの[位置合わせ]をクリックします。  
選択したオブジェクトが中央で揃います。  
[Shift]キーでオブジェクトを複数選択した場合は、最後に選択したオブジェクトに重なります。ドラッグで複数のオブジェクトを選択した場合は、最も前面に配置されているオブジェクトに重なります。



### ■ 関連項目

[オブジェクトを水平・垂直に移動する](#)

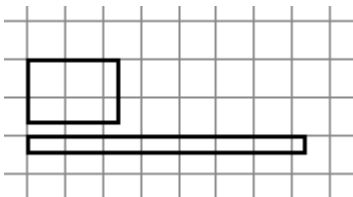
[オブジェクトの位置を揃える - グリッド・スナップの利用 -](#)

## オブジェクトの位置を揃える - グリッド・スナップの利用 -

グリッドを目安にオブジェクトの位置や大きさを決めることができます。グリッドは画面の縦横にそれぞれ等間隔で表示されます。インストール直後には、グリッド表示がオフに設定されています。

オブジェクトをグリッドに吸着させるには、[表示]メニューの[グリッドにスナップ]をオンにします。

1. 任意の場所にオブジェクトを作成します。
2. [表示]メニューの[グリッド]をクリックしてオンにします。
3. [表示]メニューの[グリッドにスナップ]をクリックしてオンにします。
4. オブジェクトを1つずつ選択し、配置させたい位置のグリッドに移動します。オブジェクトは自動的にグリッドに吸着し、位置を揃えることができます。

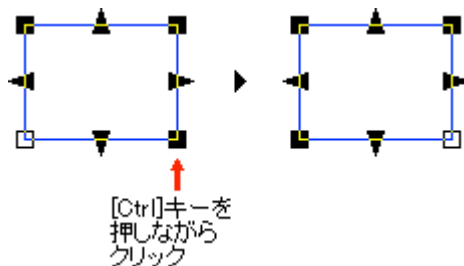


上図は、2つの四角形を左端で揃えた場合

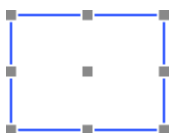
## オブジェクトがグリッドに吸着する点 を変える

グリッドの吸着ポイントは、初期状態でオブジェクトの左下です。

吸着ポイントを変えるには、[Ctrl]キーを押しながらポイントをクリックします。



吸着ポイントには、オブジェクト周辺の点(8点)と中央が設定可能です。



この機能を利用して、複数のオブジェクトを中央で揃えたり、右上で揃えたりできます。

### ■ 関連項目

[グリッドの設定](#)

[オブジェクトの位置を中心点で揃える](#)

## 市販のソフトウェアで作成 した図形を貼り付ける

**ベクトルデータ**を扱うソフトウェア(CorelDRAW など)で作成したデータをコピーし、**クリップボード**を介してDr.Engraveに貼り込むことができます。貼り込んだデータは、通常のオブジェクトと同様に編集することができます。

貼り込むことのできるデータの条件

- ・ **ビットマップデータ**を含めない
- ・ 図形内に塗り・網掛けを設定しない
- ・ 線は極細線 (指定できる最も細い線) に設定する

1. 市販のソフトウェアで作成した図形をコピーします。  
コピー方法は、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
2. Dr.Engraveで[編集]メニューの[貼り付け]をクリックします。  
コピーしたデータがDr.Engraveに配置されます。

## シンボル図形を貼り付ける

Dr.Engrave には、シンボル(記号集)が用意されています。編集集中のファイルにシンボルを追加したり、Dr.Engrave のオブジェクトをシンボルに登録したりできます。

### シンボルの挿入

1. [図形]メニューの[シンボル挿入]をクリックします。  
[シンボルの挿入]ダイアログボックスが表示されます。
2. グループを選択し、追加するシンボルをクリックします。
3. [挿入]をクリックします。  
選んだシンボル(オブジェクト)が画面に配置されます。
4. 配置されたシンボルの大きさと位置を調整します。

### シンボルの登録

1. シンボルとして登録するオブジェクトを選択します。
2. [図形]メニューの[シンボル登録]をクリックします。  
[シンボルの登録]ダイアログボックスが表示されます。
3. シンボルは、用途や形状にあわせてグループに登録します。  
新たにグループを作成する場合は、[新規グループ]のボタンをクリックし、グループ名を入力します。  
既存のグループにシンボルを追加する場合は、[グループ名]でグループ名称を選択します。
4. [シンボル名]にシンボルの名称を入力し、[登録]ボタンをクリックします。

## 数値の単位を変えるには

数値の単位は、Dr.Engrave 起動時の Windows の単位設定に従います。ウィンドウズの単位は、[コントロールパネル] - [地域] - [数値]タブの[単位]で設定します。

単位を変更したときは、一旦 Dr.Engrave を終了し、再起動してください。

## 日本語を入力する

Dr.Engrave に日本語を入力するには、Windows に登録された日本語入力システムを利用します。(Dr.Engrave に日本語入力システムは含まれません。)

日本語入力システムがインストールされているとき、次のキー操作で日本語を入力することができます。

DOS/V 機, PC98-NX シリーズ

: [Alt]キーを押しながら[半角 / 全角]キーを押す

PC-9800 シリーズ

: [Ctrl]キーを押しながら[XFER]キーを押す

日本語の入力方法や変換方法については、お使いの日本語入力システムの取扱説明書を参照してください。



# スキャナを使って画像を読み込む

スキャナで取り込んだ画像を Dr.Engrave に読み込んでアウトライン化(輪郭抽出)し、多角形(連続直線)として貼り付けることができます。

Dr.Engrave は、TWAIN\_32 対応のスキャナに対応しています。スキャナの接続・スキャナのドライバのインストール方法は、お使いのスキャナの取扱説明書を参照してください。

画像によってはうまくアウトラインを抽出できないことがあります。以下の条件を参考にデータを用意してください。

きれいに輪郭抽出できるデータの条件

- ・ 連続階調を含まず、色と色の境目がはっきりしていること。

白黒 2 値をお勧めします。

一般に写真のスキャンデータは連続階調を含むため、輪郭抽出の元データとして不向きです。

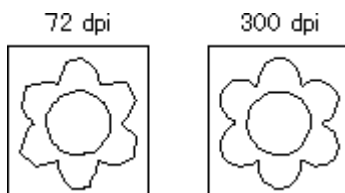
< 例 >



- ・ スキャンの 解像度を高くすること

一般に解像度を高くすると、輪郭抽出の精度が上がります。図形の複雑さや、彫刻時の大きさによって最適な解像度が異なります。ただし解像度の高いデータは、低いデータに比べて Dr.Engrave での読み込みに時間がかかります。

< 例 >



- ・ スキャンする元絵の大きさは、彫刻時のサイズと同じか 大きな絵を用意すること

彫刻するサイズよりも小さな画像を読み込み、

Dr.Engrave で拡大しても元絵よりきれいな図形にはなりません。彫刻結果をきれいにするには、大きなオブジェクトを縮小して目的の大きさにします。

1. [ファイル]メニューの[スキャナの選択]をクリックします。

2. スキャナのドライバを選択します。  
TWAIN 対応ドライバと TWAIN\_32 対応のドライバが両方インストールされている場合は、TWAIN\_32 対応のドライバを選びます。
3. スキャナに原稿をセットします。
4. [ファイル]メニューの[スキャナ読み込み]をクリックします。  
スキャンするためのアプリケーションが起動します。操作方法については、お使いのスキャナの取扱説明書を参照してください。
5. スキャン作業が終了すると、Dr.Engrave にスキャンデータが読み込まれます。  
[プレビュー]ダイアログボックスが開きます。
6. スキャンデータの内容を確認し、[OK]をクリックします。
7. 画面にアウトライン化されたオブジェクトが配置されます。



# 既存の画像ファイルを読み込む

Dr.Engraveは、**Windows Bitmap**形式(拡張子は\*.bmp)の画像ファイルを読み込んでアウトライン化(輪郭抽出)し、多角形(連続直線)として貼り付けることができます。Windows Bitmap形式へのファイル保存の方法は、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

画像によってはうまくアウトラインを抽出できないことがあります。以下の条件を参考にデータを用意してください。

きれいに輪郭抽出できるデータの条件

- ・ **連続階調**を含まず、色と色の境目がはっきりしていること。

白黒2値をお勧めします。

一般に写真のスキャンデータは連続階調を含むため、輪郭抽出の元データとして不向きです。

< 例 >

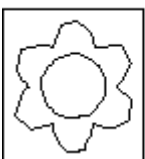


- ・ スキャンの**解像度**を高くすること

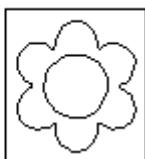
一般に解像度を高くすると、輪郭抽出の精度が上がります。図形の複雑さや、彫刻時の大きさによって最適な解像度が異なります。ただし解像度の高いデータは、低いデータに比べてDr.Engraveでの読み込みに時間がかかります。

< 例 >

72 dpi



300 dpi



- ・ スキャンする元絵の大きさは、彫刻時のサイズと同じか大きな絵を用意すること

彫刻するサイズよりも小さな画像を読み込み、

Dr.Engraveで拡大しても元絵よりきれいな図形にはなりません。彫刻結果をきれいにするには、大きなオブジェクトを縮小して目的の大きさにします。

1. [ファイル]メニューの[インポート]をクリックします。  
[ファイルを開く]ダイアログボックスが開きます。
2. [ファイルの種類]をクリックし、[Windows Bitmap File (\*.bmp)]を選択します。  
一覧にインポート可能なファイルが表示されます。ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

3. プレビュー画面に読み込んだデータが表示されます。内容を確認して、[OK]をクリックします。

カラーの画像の場合、色によってうまくアウトラインを抽出できないことがあります。[画像の濃度調整]のスライダーをドラッグして画像を調整するか、<きれいに輪郭抽出できるデータの条件>を参考に市販のソフトウェアでデータを修正してください。

4. 画面にアウトライン化されたオブジェクトが配置されます。

## ■ 関連項目

[\[ファイル\]-\[インポート\] コマンド](#)

4



コマンド解説

## ツールバーのボタン

ツールバーには、[開く ...]や[上書き保存]など Dr.Engrave のコマンドを実行するためのボタンが用意されています。マウスポインタをボタンの上に重ねると、そのボタンの機能が確認できます。



新しいファイルを作成します。



既存の Dr.Engrave ファイルを開きます。



現在の名前でファイルを保存します。



編集画面に表示されている彫刻データを彫刻機に出力します。



選択したオブジェクトを削除し、クリップボードにコピーします。



選択したオブジェクトをクリップボードにコピーします。



クリップボードの内容をコピーして画面に貼り付けます。



オブジェクトを選択します。



多角形(連続直線)の頂点の位置を移動し、形を変えます。



オブジェクトを拡大または縮小して表示します。



彫刻する文字列を入力します。



任意の位置をドラッグし、正方形・長方形を作成します。



任意の位置をドラッグし、角が丸い四角形を作成します。



任意の位置をドラッグし、円・楕円を作成します。



任意の位置をドラッグし、星形の図形を作成します。



頂点をクリックし、開いた多角形(連続直線)を作成します。



文字の入力枠を作成します。  
テンプレートファイルの編集時のみ有効です。



選択した文字列を線文字に変換します。



図形または文字の内部をさらい彫刻します。



オブジェクトの前後関係を変えます。  
選択したオブジェクトを前面に配置します。



オブジェクトの前後関係を変えます。  
選択したオブジェクトを背面に配置します。



選択した文字列を横書きに変えます。



選択した文字列を縦書きに変えます。

# [ファイル] メニュー

## [ファイル]-[新規作成] コマンド

新しいファイルを作成します。

ツールバーのボタンをクリックすると、図形と文字列が何も入力されていない新規のドキュメントファイルが作成されます。[ファイル]メニューの[新規作成]をクリックすると、[新規作成]ダイアログボックスが開きます。

編集中のファイルの変更内容を保存していないと、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[N]

### [新規作成] ダイアログボックス



#### (1) タブ

テンプレートファイルのグループ名がタブに表示されます。

[標準]タブには、Dr.Engrave の[Template]フォルダにあるテンプレートファイル(\*.det)が表示されます。

新しいグループを追加するには、[Template]フォルダの1つ下の階層にフォルダを作成します。タブの名前(グループ名)は、作成したフォルダ名がそのまま利用されます。ただし、[Template]フォルダより2つ以上下の階層にあるフォルダは表示されません。

#### (2)

選択したタブに含まれるテンプレートファイルの一覧が表示されます。

図形や文字列が何も入力されていない新しいファイルを作るには、[標準]タブの[新規ファイル]を選びます。

新しいドキュメントファイル(\*.ded)を作るには、[ドキュメント]をオンにします。新しいテンプレートファイル(\*.det)を作るには、[テンプレート]をオンにします。

#### (3) プレビュー

選択したテンプレートファイルの内容が表示されます。

#### (4) ドキュメント

選択したテンプレートファイルの内容をコピーし、新しいドキュメントファイルを作ります。

何も入力されていない新しいドキュメントファイル(\*.ded)を作るには、[標準]タブの[新規ファイル]を選びここをオンにします。

#### (5) テンプレート

選択したテンプレートファイルの内容をコピーし、新しいテンプレートファイルを作ります。

何も入力されていない新しいテンプレートファイル(\*.det)を作るには、[標準]タブの[新規ファイル]を選びここをオンにします。

## [ファイル]-[開く] コマンド

既存の Dr.Engrave ファイルを開きます。

このコマンドを実行すると、[開く]ダイアログボックスが開きます。

編集中のファイルの変更内容を保存していないと、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[O]

## [ファイル]-[上書き保存] コマンド

現在の名前でファイルを保存します。

ファイル名と保存場所を変更して保存するには、[名前を付けて保存...] コマンドを使います。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[S]

## [ファイル]-[名前を付けて保存] コマンド

ファイルの名前を変えて保存します。

このコマンドを実行すると、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが開きます。

## [ファイル]-[インポート] コマンド

他のアプリケーションソフトウェアで作ったファイルを読み込みます。

このコマンドを実行すると[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。

### ■ 関連項目

[既存の画像ファイルを読み込む](#)

## [ファイル]-[テキスト読み込み] コマンド

カンマやタブで区切られたテキストファイルを文字枠に読み込みます。

テキスト形式の書き出し機能のある表計算ソフトやデータベースソフトで作ったファイルを流用できます。

このコマンドは、複数のプレートを配置した場合のみ有効です。

コマンドを実行すると[ファイルを開く]ダイアログボックスが開きます。

ファイルを選び[OK]をクリックすると、[テキスト読み込みウィザード]が開きます。[テキスト読み込みウィザード]に表示されるメッセージに従って作業を進めてください。

### ■ 関連項目

[文字枠にテキストファイルを読み込む](#)

## [ファイル]-[スキャナの選択] コマンド

コンピュータに接続されているスキャナを選びます。

Dr.Engrave は TWAIN\_32 対応のスキャナに対応しています。スキャナの接続・スキャナドライバのインストール方法は、お使いのスキャナの取扱説明書を参照してください。

TWAIN 対応ドライバと TWAIN\_32 対応のドライバが両方インストールされている場合は、TWAIN\_32 対応のドライバを選びます。

### ■ 関連項目

[スキャナを使って画像を読み込む](#)

## [ファイル]-[スキャナ読み込み] コマンド

スキャナから画像を読み込みます。

読み込まれた画像は、輪郭抽出し図形に変換されます。このコマンドを実行すると、スキャンするためのソフトウェアが起動します。操作方法については、お使いのスキャナの取扱説明書を参照してください。

### ■ 関連項目

[スキャナを使って画像を読み込む](#)



## [ファイル]-[印刷] コマンド

編集画面に表示されている彫刻データを彫刻機に出力します。

コマンドを実行すると、[印刷]ダイアログボックスが開きます。データを出力するには、[プリンタ名]ボックスの下矢印をクリックし、出力先のドライバをクリックします。

[印刷]ダイアログボックスで、印刷範囲・印刷部数などを設定します。

加工範囲(材料の大きさ)や加工条件(ツールの速度や深さなど)を設定するには、[プロパティ]をクリックします。プロパティの設定については、ドライバのヘルプをご覧ください。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[P]

## [ファイル]-[印刷プレビュー] コマンド

印刷をする前に、印刷結果を画面で確認します。

このコマンドを実行すると、オブジェクトの編集画面から印刷のプレビュー画面に変わります。

プレビュー画面のコマンド

印刷	印刷を行います。[印刷]ダイアログボックスが開きます。
設定	用紙サイズや余白などの設定を行います。[ページ設定]ダイアログボックスが開きます。
ズームイン	印刷イメージを拡大して表示します。
ズームアウト	印刷イメージを縮小して表示します。
閉じる	印刷のプレビュー画面を閉じます。

## [ファイル]-[プリンタの設定] コマンド

ドライバを選択します。

[印刷設定]ダイアログボックスが開きます。データを出力するには、[名前]ボックスの下矢印をクリックし、出力先のドライバをクリックします。

加工範囲(材料の大きさ)や加工条件(ツールの速度や深さなど)の設定をするには、[プロパティ]をクリックします。プロパティの設定については、ドライバのヘルプをご覧ください。

ここで設定した内容は、一時的に記憶されます。Dr.Engraveを終了すると変更内容は消去されます。

## [ファイル]-[環境設定] コマンド

文字入力時の初期フォントや文字の高さ、画面の配色、ズーム倍率を設定します。  
このコマンドを実行すると、[環境設定]ダイアログボックスが開きます。

### [環境設定]ダイアログボックス



- (1)  
文字列の初期設定か文字枠の初期設定かを選びます。
- (2) 文字高  
文字の高さの初期値を入力します。
- (3)  
文字のどの部分の高さを入力するかを選びます。
- (4) フォント  
文字入力時の初期フォントを設定します。
- (5) シート色  
彫刻範囲の色を決めます。  
選択肢以外の色を指定するときは、[その他]をクリックします。[色の設定]ダイアログボックスが開きます。
- (6) 背景色  
彫刻範囲の背景の色を決めます。  
選択肢以外の色を指定するときは、[その他]をクリックします。[色の設定]ダイアログボックスが開きます。
- (7) ズーム倍率  
Dr.Engrave 起動時のズーム倍率を決めます。

## [ファイル]-[終了] コマンド

プログラムを終了します。  
編集中的ファイルの変更内容を保存していないとき、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

▶ ショートカット :



アプリケーションウィンドウの閉じるボタンをクリックする。

## [編集] メニュー

### [編集]-[元に戻す] コマンド

直前の変更作業を取り消し、元に戻します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Z]

### [編集]-[やり直し] コマンド

直前の[元に戻す] コマンドを取り消します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Y]



### [編集]-[切り取り] コマンド

選択したオブジェクトを削除し、**クリップボード**にコピーします。

クリップボードの内容は、別のオブジェクトがクリップボードにコピーされるまで保持されます。クリップボードの内容を貼り付けるには、[編集] - [貼り付け] コマンドを実行します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[X]



### [編集]-[コピー] コマンド

選択したオブジェクトを**クリップボード**にコピーします。クリップボードの内容は、別のオブジェクトがクリップボードにコピーされるまで保持されます。クリップボードの内容を貼り付けるには、[編集] - [貼り付け] コマンドを実行します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[C]

■ 関連項目

[オブジェクトの複製](#)



### [編集]-[貼り付け] コマンド

クリップボードの内容をコピーして画面に貼り付けます。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[V]

■ 関連項目

[オブジェクトの複製](#)

### [編集]-[削除] コマンド

選択したオブジェクトを削除します。

クリップボードにオブジェクトはコピーされません。

▶ キーボードショートカット： [Delete]

### [編集]-[すべて選択] コマンド

画面に表示されている全てのオブジェクトを選択します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[A]

## [表示] メニュー



### [表示]-[ズーム] -[ズームイン] コマンド

オブジェクトを拡大して表示します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Page Down]



### [表示]-[ズーム] -[ズームアウト] コマンド

オブジェクトを縮小して表示します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Page Up]

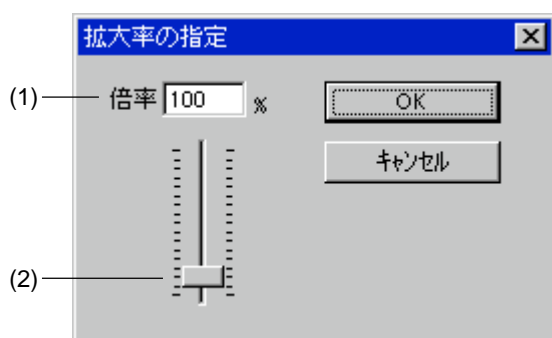


### [表示]-[ズーム] -[倍率指定] コマンド

オブジェクトの拡大・縮小表示を倍率で指定します。  
このコマンドを実行すると、[拡大率の指定]ダイアログボックスが開きます。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Page Up]

#### [拡大率の指定] ダイアログボックス



- (1)  
画面の表示倍率を百分率で入力します。  
1 から 800 までの整数が入力できます。
- (2)  
このスライダーを上下にドラッグすると、表示倍率が変わります。  
1 から 800 までの整数が入力できます。

### [表示]-[画面フィット] コマンド

オブジェクトを画面いっぱいに拡大または縮小して表示します。

### [表示]-[ツールバー] コマンド

ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。  
ツールバーには、[開く ...]や[上書き保存]など Dr.Engrave のコマンドを実行するためのボタンが用意されています。マウスポインタをボタンの上に重ねると、そのボタンの機能が確認できます。  
ツールバーを非表示にすると、編集画面の表示領域が広がります。

■ 関連項目  
[ツールバーのボタン](#)

### [表示]-[図形情報表示] コマンド

図形情報バーの表示 / 非表示を切り替えます。  
図形情報バーには、マウスポインタの位置、選択したオブジェクトの中心位置・大きさ・角度・傾きが表示されます。  
図形情報バーを非表示にすると、編集画面の表示領域が広がります。

### [表示]-[ステータスバー] コマンド

ステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。  
ステータスバーは、コマンドに関するコメントを表示します。操作に慣れないうちは、表示しておくことをお勧めします。  
ステータスバーを非表示にすると、オブジェクトの表示領域が広がります。

### [表示]-[レイアウト情報] コマンド

レイアウト情報バーの表示 / 非表示を切り替えます。  
レイアウト情報バーには、左下に配置したプレートの左下点(起点)の位置、隣り合うテンプレートとの間隔、現在の表示ページ、ページ送りの操作ボタンが表示されます。  
複数のプレートを配置しているときのみ表示 / 非表示の切り替えができます。このとき、図形情報バーは表示されません。  
レイアウト情報バーを非表示にすると、編集画面の表示領域が広がります。



## [表示]-[ガイド] コマンド

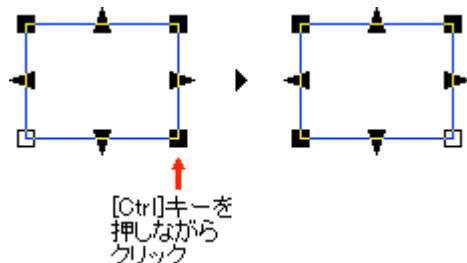
ガイドラインの表示 / 非表示を切り替えます。  
 複数のプレートを配置しているときのみ表示 / 非表示の切り替えができます。  
 ガイドラインを使って、  
 左下に配置したプレートの左下点(起点)の位置  
 隣り合うプレートとの間隔  
 を、マウス操作で設定することができます。

## [表示]-[グリッド] コマンド

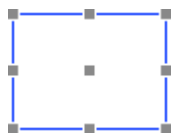
グリッドの表示 / 非表示を切り替えます。

## [表示]-[グリッドにスナップ] コマンド

オンにすると、オブジェクトをグリッドに吸着させます。  
 グリッドに吸着させると、複数のオブジェクトの位置を揃えたり、オブジェクトの大きさが設定しやすくなります。  
 インストール直後は、この機能はオフに設定されています。  
 グリッドの吸着ポイントは、初期状態でオブジェクトの左下です。  
 吸着ポイントを変えるには、[Ctrl]キーを押しながらポイントをクリックします。



吸着ポイントには、オブジェクト周辺の点(8点)と中央が設定可能です。



## [表示]-[グリッドの設定] コマンド

グリッドの間隔、グリッドの表示 / 非表示、グリッドへの吸着機能のオン / オフを設定します。  
 このコマンドを実行すると、[グリッドの設定]ダイアログボックスが開きます。

## [グリッドの設定] ダイアログボックス



- (1)  
 水平方向に隣り合うグリッドの間隔を入力します。  
 インストール直後は、5.0 mm (0.197 inch)に設定されます。  
 設定範囲： 0 ~ 100 mm  
 (0 ~ 4 inch)

### ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

- (2)  
 垂直方向に隣り合うグリッドの間隔を入力します。  
 インストール直後は、5.0 mm (0.197 inch)に設定されます。  
 設定範囲： 0 ~ 100 mm  
 (0 ~ 4 inch)

### ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

- (3)  
 グリッドの表示・非表示を切り替えます。
- (4)  
 オブジェクトのグリッドへの吸着機能をオン / オフにします。
- (5)  
 グリッドが線で表示されます。
- (6)  
 グリッドが点で表示されます。

## [書式] メニュー

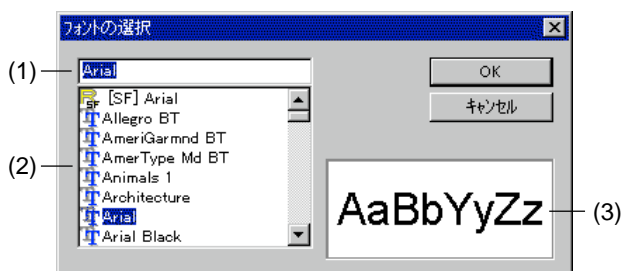
### [書式]-[フォント] コマンド

文字列のフォントを選びます。

このコマンドを実行すると、[フォントの選択]ダイアログボックスが開きます。

文字入力時のフォントを設定するには、[ファイル]メニューの[環境設定]をクリックします。

#### [フォントの選択] ダイアログボックス



(1)

選択しているフォントを表示します。

フォント一覧からフォントを選ぶと、表示が変わります。

[OK]をクリックすると、ここに表示されているフォントに設定されます。

(2)

選択可能なフォントを表示します。一覧からフォントをクリックして選びます。

Windowsに登録されているTrueTypeフォントと独自に作成した線文字フォントが表示されます。

漢字やひらがななどの日本語には、日本語フォントを指定してください。欧文フォントを指定すると、文字が正常に表示されません。

(3)

選択されたフォントの形を表示します。

### [書式]-[スタイル] コマンド

文字列に太字や斜体のスタイルを指定します。

ここで指定できる以外の太さや傾きを設定するには、[その他]をクリックします。文字列のプロパティまたは文字枠のプロパティが開きます。

### [書式]-[文字列方向] コマンド

選択している文字列の縦書き・横書きを設定します。

### [書式]-[行揃え] コマンド

文字列を左端で揃えたり、右端で揃えたり、中央で揃えたり、両端で揃えたりすることができます。

加えて文字枠の場合は、文字枠の上に文字を付けたり、下に付けたりすることができます。文字枠に文字を均一に配置させることもできます。

文字列のプロパティまたは文字枠のプロパティでも設定できます。

### [書式]-[行間] コマンド

隣り合う行の間隔を指定します。

選択肢以外の行間を指定するには、[その他]をクリックします。文字列のプロパティまたは文字枠のプロパティが開きます。

### [書式]-[文字間] コマンド

隣り合う文字の間隔を指定します。

選択肢以外の文字間を指定するには、[その他]をクリックします。文字列のプロパティまたは文字枠のプロパティが開きます。

### [書式]-[線文字] コマンド

選択した文字列を線文字に変換します。

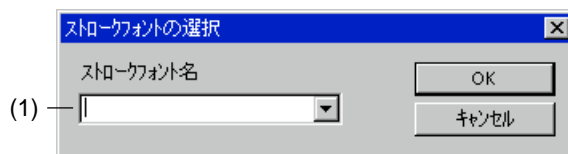
文字の中心線を抽出し、線文字を作ります。

このコマンドを実行すると、[ストロークフォントの選択]ダイアログボックスが開きます。



フォントによっては、線文字が横一列に揃わなかったり、文字のデザイン通りの線分に変換されなかったりすることがあります。そのときは、[書式] - [線文字の編集] コマンドで線文字を整形してください。

#### [ストロークフォントの選択] ダイアログボックス



(1) ストロークフォント名

線文字フォントを選びます。

新しい線文字フォントを作るには、このテキストボックスにフォント名を入力します。

## [書式]-[線文字の編集] コマンド

線文字を整形します。

線文字編集用のソフトウェア(SFEdit)が開きます。選択した文字列の最初の文字が編集画面に表示されます。

SFEdit の操作方法については、付録の「[SFEdit の操作方法](#)」をご覧ください。

## [書式]-[プロパティ] コマンド

文字列または文字枠の書式や大きさを数値で変更します。

文字列を選択しているときは[文字列のプロパティ](#)、文字枠を選択しているときは[文字枠のプロパティ](#)が開きます。

## [図形] メニュー

### [図形]-[プロパティ] コマンド

オブジェクトの形状を数値で変更します。  
形状変更のダイアログボックスが開きます。選択しているオブジェクトの種類によって設定内容が異なります。  
頂点が3つ以上の多角形(連続直線)を選択すると[多角形のプロパティ]が開きます。頂点が2つの場合は、[直線のプロパティ]が開きます。  
テンプレートのプロパティを開くには、テンプレートファイルの編集時に何もオブジェクトを選択していない状態でこのコマンドを実行します。

文字列のプロパティ  
図形のプロパティ  
多角形のプロパティ  
直線のプロパティ  
文字枠のプロパティ  
テンプレートのプロパティ

▶ キーボードショートカット： [Alt] + [Enter]  
(または [GRPH] + [Enter])

### [文字列のプロパティ] ダイアログボックス



(1) 文字高  
文字の高さを入力します。  
設定値は、文字列に含まれるすべての文字に反映されます。この数値を変えると、[全高]の値が連動して変わります。

■ 関連項目  
[数値の単位を変えるには](#)

(2) 全高  
文字列全体の高さを入力します。  
この数値を変えると、[文字高]の値が連動して変わります。

■ 関連項目  
[数値の単位を変えるには](#)

(3) 全幅  
文字列全体の幅を入力します。

■ 関連項目  
[数値の単位を変えるには](#)

(4) 縦横比  
文字または図形作成時の縦横比(縦 / 横)を 1 として、比率で大きさを入力します。  
数字を入力すると、高さを変えずに幅が変わります。2 を入力すると幅が 2 倍に、0.5 を入力すると幅が半分になります。

(5) 角度  
文字または図形の回転角を入力します。  
単位は [°] です。  
マイナスの角度も入力できます。マイナスの角度を入力すると、オブジェクトが時計方向に回転します。

(6) 字間  
隣り合う文字の間隔を入力します。文字の大きさは変わりません。  
この数値を変えると、[全幅]の値が連動して変わります。

(7) 行間  
隣り合う行の間隔を入力します。

(8)  
文字の形状を表示します。

(9)  
文字のどの部分の高さを入力するかを選びます。

(10) 縦横比を固定入力  
高さと幅に数値を入力して大きさを設定するとき、文字または図形の縦横比が一定に保たれます。  
高さ(または幅)に数値を入力すると、幅(または高さ)の数値が自動的に変わります。

(11) 行揃え  
文字列を左端で揃えたり、右端で揃えたり、中央で揃えたり、両端に揃えたりすることができます。

(12)  
選択した文字列を横書きまたは縦書きに変えます。

## (13) 傾き

文字または図形の傾きを入力します。単位は[°]です。  
正の角度を入力すると、オブジェクトは右に倒れます。  
マイナスの角度を入力すると、オブジェクトは左に倒れます。

## (14) フォント

選択されているフォント名を表示します。

文字列のフォントを変更するときは、下向きの三角形をクリックします。

## (15) 太さ

スライダーをドラッグすると、文字の太さ(ウェイト)が変わります。

フォントの標準の太さより細くすることはできません。  
スライダーの左端が標準の太さ、右端が最大の太さです。

## (16) 色

文字または図形の線の色を選びます。

[塗りつぶし]をオンにしているときは、塗りの色が変わります。

## ■ 関連項目

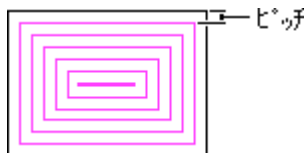
[彫刻の深さを変える](#)

## (17) 塗りつぶし

オンにすると、オブジェクト(文字または図形)の内側をさうように彫刻します。

ツールの移動経路(ツールパス)は、オブジェクトの輪郭に沿って作られます。ツールパスの間隔は、[ピッチ]で設定します。

ツールパスはオブジェクトの内側に作られます。オブジェクトの輪郭線を彫刻するには、[輪郭付]をオンにします。



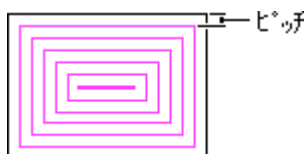
## (18) 輪郭付

オブジェクトのさらい彫刻が終わった後、オブジェクトの輪郭線を彫刻します。

## (19) ピッチ

塗りつぶしの間隔(隣り合うツールパスの間隔)を設定します。

通常は、彫刻機に取り付けたカッターの刃先径を入力します。さらい彫刻をきれいに仕上げるには、一般に刃先径より狭い間隔を設定します。



## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## [図形のプロパティ]ダイアログボックス



## (1) 幅

図形の幅を入力します。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (2) 角度

文字または図形の回転角を入力します。

単位は[°]です。

マイナスの角度も入力できます。マイナスの角度を入力すると、オブジェクトが時計方向に回転します。

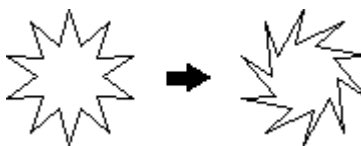
## (3) ねじり

頂点の位置を変えずに、星形の中心を回転させます。

回転角を入力します。単位は[°]です。

正の数値を入力すると反時計回りに、マイナスの数値を入力すると時計回りに回転します。

星形のみ有効です。



## (4) 色

文字または図形の線の色を選びます。

[塗りつぶし]をオンにしているときは、塗りの色が変わります。

## ■ 関連項目

[彫刻の深さを変える](#)

## (5) 図形

図形の種類を選びます。

## (6) 形

スライダーをドラッグして、図形の形を変えます。

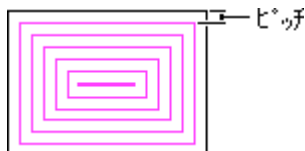
選ばれている図形の種類によって、形の変わり方が異なります。

## (7) 塗りつぶし

オンにすると、オブジェクト(文字または図形)の内側をさうように彫刻します。

ツールの移動経路(ツールパス)は、オブジェクトの輪郭に沿って作られます。ツールパスの間隔、は、[ピッチ]で設定します。

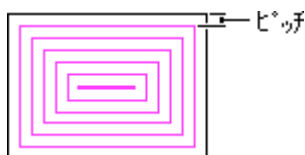
ツールパスはオブジェクトの内側に作られます。オブジェクトの輪郭線を彫刻するには、[輪郭付]をオンにします。



## (8) ピッチ

塗りつぶしの間隔(隣り合うツールパスの間隔)を設定します。

通常は、彫刻機に取り付けたカッターの刃先径を入力します。さらい彫刻をきれいに仕上げるには、一般に刃先径より狭い間隔を設定します。



## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (9) 輪郭付

オブジェクトのさらい彫刻が終わった後、オブジェクトの輪郭線を彫刻します。

## (10) 高さ

図形の高さを入力します。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (11) 傾き

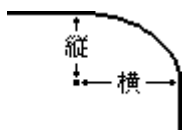
文字または図形の傾きを入力します。

単位は[°]です。

正の角度を入力すると、オブジェクトは右に倒れます。マイナスの角度を入力すると、オブジェクトは左に倒れます。

## (12) 角丸半径

角の丸い四角形の、角の丸みを入力します。



## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (13)

図形の形状を表示します。

## [多角形のプロパティ]ダイアログボックス



## (1) 幅

図形の幅を入力します。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (2) 角度

文字または図形の回転角を入力します。

単位は[°]です。

マイナスの角度も入力できます。マイナスの角度を入力すると、オブジェクトが時計方向に回転します。

## (3) 縦横比

文字または図形作成時の縦横比(縦/横)を1として、比率で大きさを入力します。

数字を入力すると、高さを変えずに幅が変わります。2を入力すると幅が2倍に、0.5を入力すると幅が半になります。

## (4) 色

文字または図形の線の色を選びます。

[塗りつぶし]をオンにしているときは、塗りの色が変わります。

## ■ 関連項目

[彫刻の深さを変える](#)

## (5) 高さ

図形の高さを入力します。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (6) 傾き

文字または図形の傾きを入力します。

単位は[°]です。

正の角度を入力すると、オブジェクトは右に倒れます。マイナスの角度を入力すると、オブジェクトは左に倒れます。

## (7) 縦横比を固定入力

高さ(または幅)に数値を入力して大きさを設定するとき、文字または図形の縦横比が一定に保たれます。

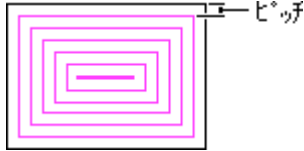
高さ(または幅)に数値を入力すると、幅(または高さ)の数値が自動的に変わります。

## (8) 塗りつぶし

オンにすると、オブジェクト(文字または図形)の内側をさうように彫刻します。

ツールの移動経路(ツールパス)は、オブジェクトの輪郭に沿って作られます。ツールパスの間隔は、[ピッチ]で設定します。

ツールパスはオブジェクトの内側に作られます。オブジェクトの輪郭線を彫刻するには、[輪郭付]をオンにします。



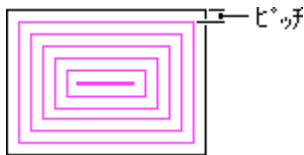
## (9) 輪郭付

オブジェクトのさらい彫刻が終わった後、オブジェクトの輪郭線を彫刻します。

## (10) ピッチ

塗りつぶしの間隔(隣り合うツールパスの間隔)を設定します。

通常は、彫刻機に取り付けたカッターの刃先径を入力します。さらい彫刻をきれいに仕上げるには、一般に刃先径より狭い間隔を設定します。



## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## [直線のプロパティ]ダイアログボックス



## (1) 始点

直線の始点と原点との距離を入力します。

始点は、直線を作図したときのドラッグ開始点です。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (2) 終点

直線の終点と原点との距離を入力します。

終点は、直線を作図したときのドラッグ終了点です。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (3) 色

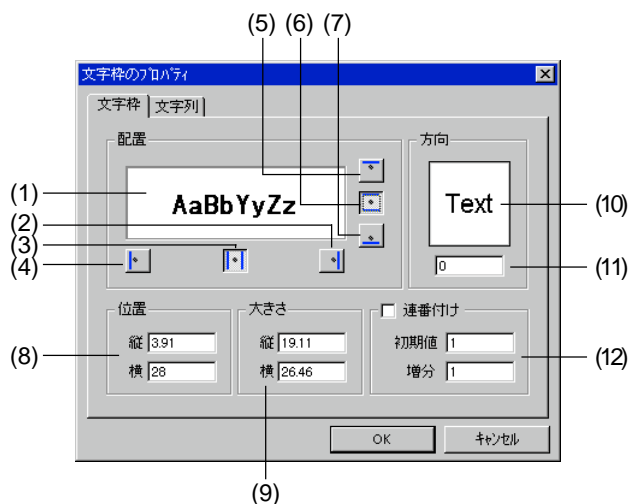
線の色を選びます。

## ■ 関連項目

[彫刻の深さを変える](#)

## [文字枠のプロパティ] ダイアログボックス

## &lt; 文字枠 &gt; タブ

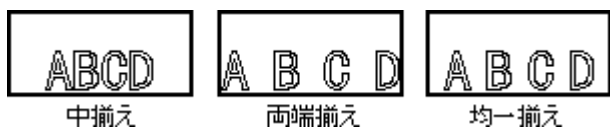


(1)  
文字枠内の文字列の配置を表示します。

(2)  
文字列を右揃えに配置します。



(3)  
文字列を横方向の中央に配置します。  
[横書き]がオンのときは、両端揃えと均等揃えが設定できます。ボタンをクリックすると順次切り替わります。両端揃えまたは均等揃えに設定したとき、[文字列]タブの[全幅]と[字間]は入力できません。



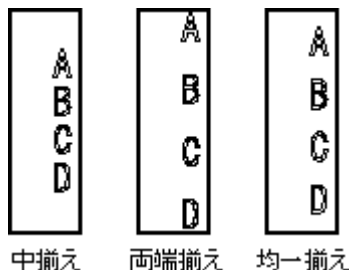
(4)  
文字列を左揃えに配置します。



(5)  
文字列を上揃えに配置します。



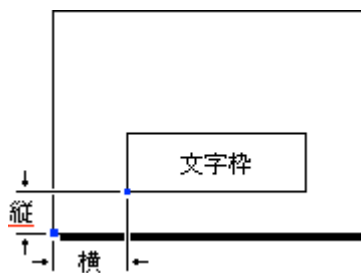
(6)  
文字列を縦方向の中央に配置します。  
[縦書き]がオンのときは、両端揃えと均等揃えが設定できます。ボタンをクリックすると順次切り替わります。両端揃えまたは均等揃えに設定したとき、[文字列]タブの[全高]と[字間]は入力できません。



(7)  
文字列を下揃えに配置します。



(8) 位置  
彫刻範囲の左下点から文字枠の左下点までの距離を入力します。



■ 関連項目  
[数値の単位を変えるには](#)

(9) 大きさ  
文字枠のサイズを入力します。



(10)  
ドラッグすると文字枠が回転します。

(11)  
文字枠の回転角度を入力します。  
単位は[°]です。  
正の数値を入力すると反時計回りに、マイナスの数値を入力すると時計回りに回転します。



## (12) 連番付け

文字枠に数字を自動入力します。

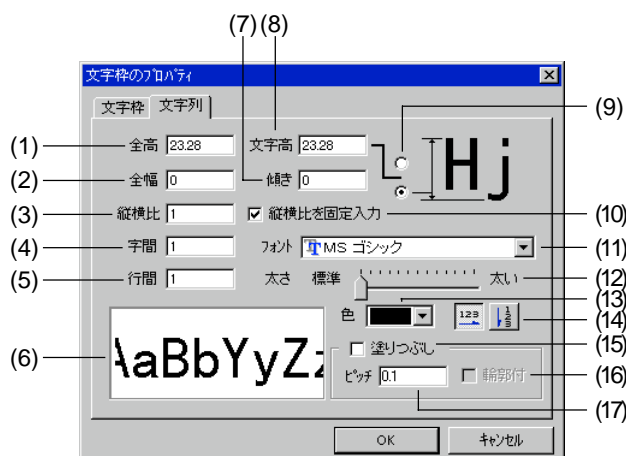
初まりの数字を[初期値]に、数の増加分を[増分]に入力します。[初期値]には、数字の前に0(ゼロ)を挿入することもできます。

図のように、左下から右上に向かってナンバリングされます。



[初期値]=1、[増分]=1 の場合

## &lt; 文字列 &gt; タブ



## (1) 全高

文字列全体の高さを入力します。

この数値を変えると、[文字高]の値が連動して変わります。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (2) 全幅

文字列全体の幅を入力します。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (3) 縦横比

文字または図形作成時の縦横比(縦/横)を1として、比率で大きさを入力します。

数字を入力すると、高さを変えずに幅が変わります。2を入力すると幅が2倍に、0.5を入力すると幅が半になります。

## (4) 字間

隣り合う文字の間隔を入力します。文字の大きさは変わりません。

この数値を変えると、[全幅]の値が連動して変わります。

## (5) 行間

隣り合う行の間隔を入力します。

## (6)

文字の形状を表示します。

## (7) 傾き

文字または図形の傾きを入力します。

単位は[°]です。

正の角度を入力すると、オブジェクトは右に倒れます。マイナスの角度を入力すると、オブジェクトは左に倒れます。

## (8) 文字高

文字の高さを入力します。

設定値は、文字列に含まれるすべての文字に反映されます。この数値を変えると、[全高]の値が連動して変わります。

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## (9)

文字のどの部分の高さを入力するかを選びます。

## (10) 縦横比を固定入力

高さや幅に数値を入力して大きさを設定するとき、文字または図形の縦横比が一定に保たれます。

高さ(または幅)に数値を入力すると、幅(または高さ)の数値が自動的に変わります。

## (11) フォント

選択されているフォント名を表示します。

文字列のフォントを変更するときは、下向きの三角形をクリックします。

## (12) 太さ

スライダーをドラッグすると、文字の太さ(ウェイト)が変わります。

フォントの標準の太さより細くすることはできません。スライダーの左端が標準の太さ、右端が最大の太さです。

## (13) 色

文字または図形の線の色を選びます。

[塗りつぶし]をオンにしているときは、塗りの色が変わります。

## ■ 関連項目

[彫刻の深さを変える](#)

(14)

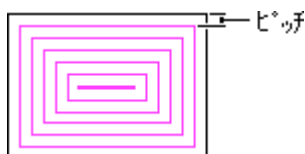
選択した文字列を横書きまたは縦書きに変えます。

(15) 塗りつぶし

オンにすると、オブジェクト(文字または図形)の内側をさうように彫刻します。

ツールの移動経路(ツールパス)は、オブジェクトの輪郭に沿って作られます。ツールパスの間隔は、[ピッチ]で設定します。

ツールパスはオブジェクトの内側に作られます。オブジェクトの輪郭線を彫刻するには、[輪郭付]をオンにします。



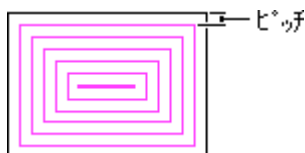
(16) 輪郭付

オブジェクトのさらい彫刻が終わった後、オブジェクトの輪郭線を彫刻します。

(17) ピッチ

塗りつぶしの間隔(隣り合うツールパスの間隔)を設定します。

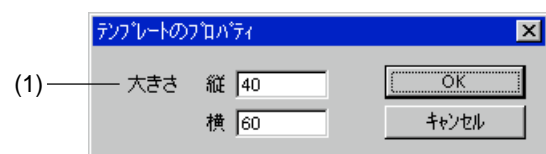
通常は、彫刻機に取り付けたカッターの刃先径を入力します。さらい彫刻をきれいに仕上げるには、一般に刃先径より狭い間隔を設定します。



■ 関連項目

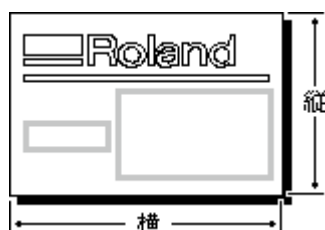
数値の単位を変えるには

[テンプレートのプロパティ]ダイアログボックス



(1) 大きさ

テンプレートのサイズを入力します。



■ 関連項目

数値の単位を変えるには

## ■ [図形]-[塗りつぶし] コマンド

図形または文字の内部をさらい彫刻します。

オブジェクトの輪郭線を彫刻するには、[輪郭付]をオンにします。[輪郭付]がオフのとき、塗りつぶしたオブジェクトの輪郭線はグレーで表示されます。

このコマンドを実行すると、[塗りつぶしの設定]ダイアログボックスが開きます。

結合した多角形に塗りつぶしを指定すると、図のように内側と外側の間をさらい加工できます。



■ 関連項目

[図形] - [多角形の結合] コマンド

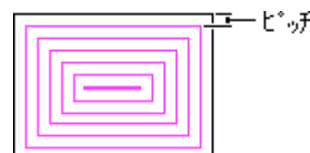
## [塗りつぶし設定] ダイアログボックス



(1) ピッチ

塗りつぶしの間隔(隣り合うツールパスの間隔)を設定します。

通常は、彫刻機に取り付けたカッターの刃先径を入力します。さらい彫刻をきれいに仕上げるには、一般に刃先径より狭い間隔を設定します。



(2) 色

塗りつぶしの線の色を選びます。

■ 関連項目

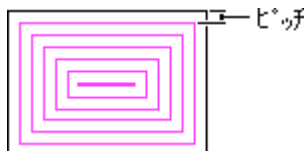
彫刻の深さを変える

## (3) 塗りつぶし

オンにすると、オブジェクト(文字または図形)の内側をさうように彫刻します。

ツールの移動経路(ツールパス)は、オブジェクトの輪郭に沿って作られます。ツールパスの間隔は、[ピッチ]で設定します。

ツールパスはオブジェクトの内側に作られます。オブジェクトの輪郭線を彫刻するには、[輪郭付]をオンにします。



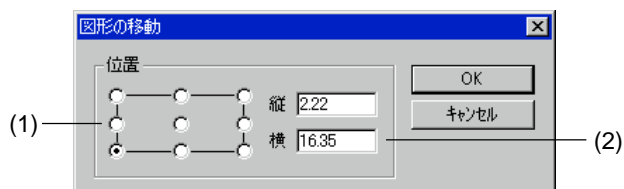
## (4) 輪郭付

オブジェクトのさらい彫刻が終わった後、オブジェクトの輪郭線を彫刻します。

## [図形]-[移動] コマンド

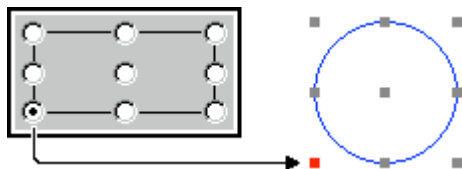
オブジェクトの位置を原点からの距離で指定します。このコマンドを実行すると、[図形の移動]ダイアログボックスが開きます。

## [図形の移動]ダイアログボックス

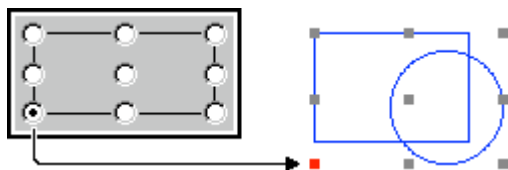


## (1)

オブジェクトのどの部分の位置を指定するか選びます。

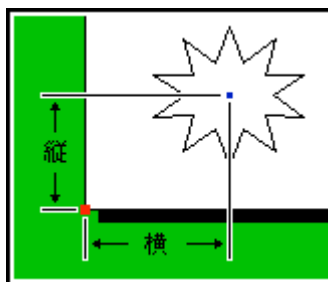


複数のオブジェクトを選んでいるときは、全てのオブジェクトを包括する四角形を表します。



## (2) 縦、横

オブジェクトの位置を原点からの距離で指定します。



オブジェクトの中心を指定ポイントにしている場合

## ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

## [図形]-[左右反転] コマンド

オブジェクトの左右を反転させ、鏡像を作成します。

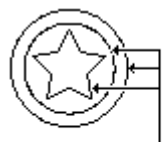
## [図形]-[多角形に変換] コマンド

多角形(連続直線)以外のオブジェクトを多角形の属性に変換します。

多角形に変換したオブジェクトは頂点の編集ができます。一旦多角形に変換したオブジェクトを元の属性(文字列、四角、角丸四角、円・楕円、星形)に戻すことはできません。

## [図形]-[多角形の結合] コマンド

複数の多角形(連続直線)をまとめ1つの多角形にします。結合前のオブジェクトの配置を保ったまま、移動したり大きさを変えたりすることができます。結合した多角形は、通常が多角形と同様に頂点の編集ができます。



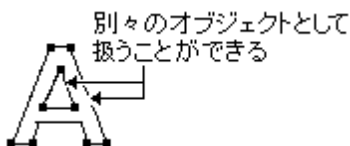
一つのオブジェクトとして扱うことができる

結合した多角形に塗りつぶしを指定すると、図のように内側と外側の間をさらい加工できます。



## [図形]-[多角形の分解] コマンド

多角形を個々の部品に分割します。



## [図形]-[頂点の切断] コマンド

指定した場所で多角形(連続直線)を切断します。

切断ポイントを指定するには、多角形の線分または頂点をクリックします。

▶ キーボードショートカット： [Alt] + [Delete]  
(または [GRPH] + [DEL])

## [図形]-[頂点の挿入] コマンド

指定した場所に頂点を追加します。

▶ キーボードショートカット： [Insert] (または [INS])

■ 関連項目

[多角形の頂点を追加する](#)

## [図形]-[近い頂点へスナップ] コマンド

選択した頂点を、最も近い頂点に重ねます。

別の多角形(連続直線)の頂点にスナップさせるには ...

1. 目的の多角形を選択する。
2. [図形]メニューの[多角形の結合]をクリックする。
3. スナップする頂点を選択する。
4. [図形]メニューの[近い頂点へスナップ]をクリックする。

## [図形]-[頂点の削除] コマンド

選択した頂点を削除します。

▶ キーボードショートカット： [Delete] (または [DEL])

■ 関連項目

[多角形の頂点を削除する](#)

## [図形]-[頂点の接続] コマンド

開いた多角形(連続直線)の端点を直線で結びます。

頂点を接続するには、開いた多角形の端点を2つ選びこのコマンドを実行します。

別の多角形(連続直線)の端点を接続するには ...

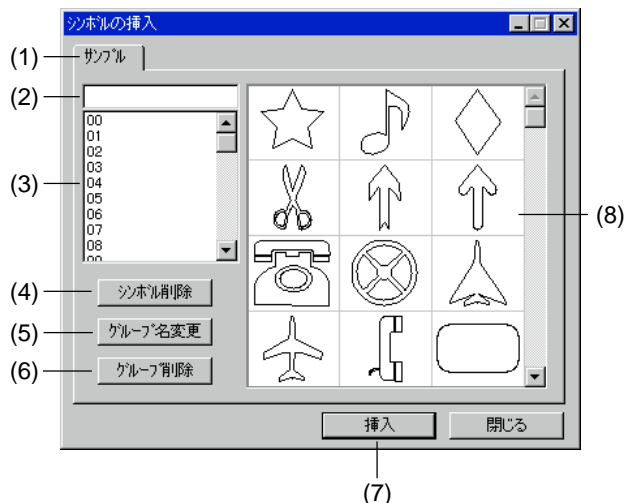
1. 目的の多角形を選択する。
2. [図形]メニューの[多角形の結合]をクリックする。
3. 端点を2つ選択する。
4. [図形]メニューの[頂点の接続]をクリックする。

▶ キーボードショートカット： [Alt] + [Insert]  
(または [GRPH] + [INS])

## [図形]-[シンボルの挿入] コマンド

編集中のファイルにシンボルを追加します。  
このコマンドを実行すると[シンボルの挿入]ダイアログボックスが開きます。

### [シンボルの挿入]ダイアログボックス



- (1) グループ名が表示されます。タブをクリックしグループを選択します。
- (2) 選択したシンボルの名称が表示されます。シンボル名を入力すると、指定したシンボルが選択されます。
- (3) シンボル名の一覧が表示されます。シンボル名をクリックして選択します。
- (4) 選択されたシンボルを削除します。
- (5) 現在選択されているグループの名前を変更します。  
[グループ名の変更]ダイアログボックスが開きます。そのダイアログボックスでグループ名を入力します。
- (6) 現在選択されているグループを削除します。グループに登録されているシンボルも全て削除されます。
- (7) 選択したシンボルを編集中のファイルに追加します。
- (8) シンボルの形状の一覧が表示されます。シンボルをクリックして選択します。

## [図形]-[シンボル登録] コマンド

Dr.Engrave のオブジェクトをシンボルに登録します。  
このコマンドを実行すると、[シンボルの登録]ダイアログボックスが開きます。

### [シンボルの登録]ダイアログボックス



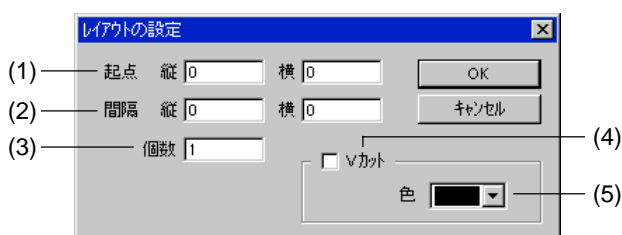
- (1) シンボルの登録先のグループを選択します。クリックすると既存のグループ名が一覧で表示されます。新しいグループを追加するには、[新規グループ]ボタンをクリックします。
- (2) 選択したオブジェクトのシンボル名を入力します。
- (3) 選択したオブジェクトがシンボルとして登録されます。
- (4) シンボルの新しいグループを追加します。[グループの新規作成]ダイアログボックスが開きます。そのダイアログボックスでグループ名を入力します。

## [配置] メニュー

### [配置]-[レイアウトの設定] コマンド

開いたテンプレートを領域内に複数枚配置します。  
編集中のテンプレートファイルを配置する場合は、このコマンドを実行する前にファイルを保存してください。プレートの配置モードに移行した後で、テンプレートファイルの保存はできません。  
このコマンドを実行すると、[レイアウトの設定]ダイアログボックスが開きます。

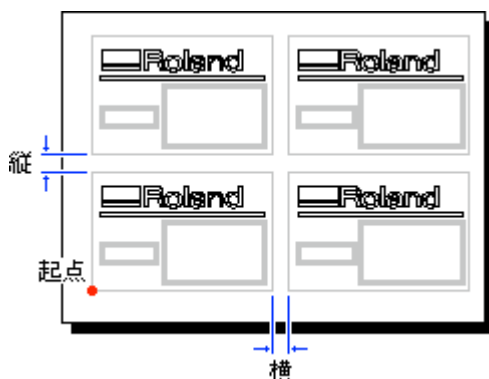
#### [レイアウトの設定]ダイアログボックス



##### (1) 起点

ページ内の左下に配置されたプレートの左下点の位置を入力します。

Dr.Engrave の原点からの距離を入力します。



##### ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

##### (2) 間隔

隣り合うプレートの間隔を設定します。

##### ■ 関連項目

[数値の単位を変えるには](#)

##### (3) 個数

テンプレートの配置枚数を入力します。

##### (4) V カット

プレートの輪郭に切り込みを入れます。

1枚のプレートに複数枚のプレートを彫刻し、彫刻後にVカットのラインに沿って切り離すことができます。

彫刻後のプレートサイズは、Vカットの幅だけ小さくなります。できあがりのプレートサイズを確保するには、あらかじめVカットの幅を加えたプレートサイズを指定しておきます。Vカットの幅は、カッターの刃先形状と切り込みの深さによって異なります。

Vカットの切り込みの深さを設定するには、線の色を設定します。

オンにすると、プレートの間隔は0(ゼロ)に設定されます。

##### ■ 関連項目

[一枚のプレートを分割して複数のプレートを作る  
彫刻の深さを変える](#)

##### (5) 色

Vカットする線の色を選びます。

色は、切り込みの深さを表します。各色の深さは、彫刻機のドライバで設定することができます。設定方法については、ドライバのヘルプをご覧ください。

##### ■ 関連項目

[彫刻の深さを変える](#)

### [配置]-[テンプレートの編集] コマンド

読み込んだテンプレートの内容を変更します。

このコマンドを実行すると、テンプレートの編集画面に切り替わります。変更内容は、配置されたプレートに反映されます。ただし、参照元のテンプレートファイルは変更されません。

プレートの配置画面に戻すには、[レイアウトに戻る] コマンドを実行します。

### [配置]-[レイアウトに戻る] コマンド

[テンプレートファイルの編集] コマンドでテンプレートの編集を行っているとき、プレートの配置画面に戻ります。



### [配置]-[前面に移動] コマンド

オブジェクトの前後関係を変えます。

選択したオブジェクトを前面に配置します。

▶ キーボードショートカット： [Shift] + [Page Up]



## [配置]-[後面に移動] コマンド

オブジェクトの前後関係を変えます。  
選択したオブジェクトを背面に配置します。

▶ キーボードショートカット： [Shift] + [Page Down]

## [配置]-[位置合わせ] コマンド

選択されている全てのオブジェクトの中心位置を合わせます。

[Shift]キーを押しながらオブジェクトを複数選択した場合は、最後に選択したオブジェクトに重なります。ドラッグによる範囲選択で複数のオブジェクトを選択した場合は、最も前面に配置されているオブジェクトに重なります。

■ 関連項目

[オブジェクトの位置を中心点で揃える](#)

## [ヘルプ] メニュー

### [ヘルプ]-[目次] コマンド

Dr.Engrave のヘルプの目次を表示します。

### [ヘルプ]-[バージョン情報] コマンド

Dr.Engrave のバージョン情報や著作権を表示します。

5

---

こんなときは...



## こんなときは...

### Dr.Engrave が動作しない

#### お使いのコンピュータは Dr.Engrave の動作環境に合っていますか？

Dr.Engrave の動作環境に合ったコンピュータをお使いください。

#### セットアッププログラムを使ってインストールを行いましたか？

Dr.Engrave のインストールは、必ずセットアッププログラムを使って行ってください。

セットアッププログラムは、Dr.Engrave のファイルを適切な場所に配置し、Windows で使用可能にします。

### 彫刻機が動かない

#### プリンタドライバのポート選択は正しいですか？

データの出力ポートは、プリンタドライバーで設定します。ドライバーのプロパティを開き、[詳細]タブの[印刷先のポート]を確認してください。

#### ケーブルが接続されていますか？

コンピュータと彫刻機の電源をオフにし、パラレルケーブル(プリンタケーブル)またはシリアル(RS-232C)ケーブルを接続してください。

#### ケーブルの種類は正しいですか？

接続ケーブルは、コンピュータの機種によって異なります。コンピュータの機種にあった正しいケーブルで接続してください。

接続ケーブルの抜き差しは、コンピュータと彫刻機の電源をオフにしてから行ってください。

## エラーメッセージ一覧

### 「指定フォント @@@ がみつかりません。」

開こうとしている Dr.Engrave のファイルに、Windows に登録されていないフォントが含まれています。このとき、使用するフォントの一覧が表示されます。

フォント環境の異なる機種で作ったファイルか、Windows からフォントが削除された可能性があります。元のイメージを再現するには、フォントをインストールしてください。

### 「メモリが足りません。」

何らかの処理中にメモリ不足が発生した場合、他のアプリケーションを終了するか、Windows をリスタートしてください。

それでもメモリ不足が表示される場合は、ハードディスクの残り容量を確認してください。通常 Windows はハードディスクを仮想メモリとして使用するため、残り容量が少ないとエラーが表示されることがあります。この場合、 unnecessary ファイルを削除するか、他のディスクに移動するかして残り容量を増やしてみてください。

上記の処置を行ってもメモリ不足が表示される場合は、コンピュータのメモリ増設をお奨めします。

### 「アウトラインが生成できませんでした。」

スキャナで取り込んだ画像、もしくは、[インポート] コマンドで読み込んだ Windows Bitmap 形式の画像の濃度が薄いため、アウトラインを抽出することができません。画像データの濃度を調整してください。

#### ■ 関連項目

[スキャナを使って画像を読み込む](#)

[既存の画像ファイルを読み込む](#)

## 「予期しないファイル形式です。」

[開く] コマンドで開こうとしたファイル、[インポート] コマンドで読み込んだファイル、[テキスト読み込み] コマンドで読み込んだファイルが、Dr.Engrave で認識されないファイル形式です。Dr.Engrave が認識できるファイル形式を使用してください。

< 読み込み可能なファイル形式 >

Windows Bitmap 形式

: 拡張子 \*.bmp ([インポート] コマンドのみ)

CSV 形式

: 拡張子 \*.csv ([テキスト読み込み] コマンドのみ)

テキスト形式

: 拡張子 \*.txt ([テキスト読み込み] コマンドのみ)

Dr.Engrave ドキュメント形式

: 拡張子 \*.ded ([開く] コマンドのみ)

Dr.Engrave テンプレート形式

: 拡張子 \*.det ([開く] コマンドのみ)

## 「ベースフォント @@@@ が見つかりません。代わりのフォントを選ぶか、終了してフォントをインストールしてください。」

開こうとしている線文字フォントのファイルに、Windows に登録されていないベースフォントが設定されています。フォント環境の異なる機種で作ったファイルか、Windows からフォントが削除された可能性があります。

[終了]をクリックし Windows にフォントをインストールするか、[代用]をクリックしてベースフォントの設定を変更してください。

[代用]をクリックした場合、既存の線文字は再生成されずに残ります。ただし、フォント代用以降は代用したフォントをデザイン元にした線文字が作られます。

## その他

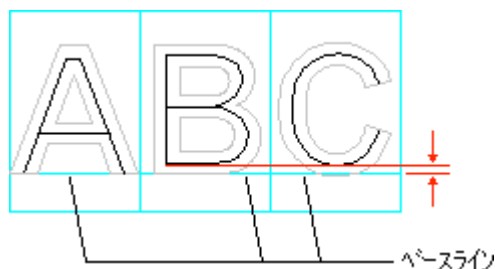
### 線文字が横一列に揃わない

線文字を横書きで入力したとき、文字が横一列に揃わないことがあります。



これは、ベースラインと文字との間隔が文字によって異なっているためです。文字を横書きにしたとき、隣り合う文字のベースラインが段差のない水平線となるように並べられます。

文字の中心線を抽出して線文字に変換するため、図のようにベースラインと文字との間隔が均一にならないことがあります。



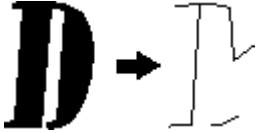
このようなときには、ベースラインと文字との間隔が均一になるように文字を整形してください。

## 線文字がデザイン元のフォントと異なる

文字を線文字に変換したとき、うまく変換されないことがあります。

主に次の原因が考えられます。

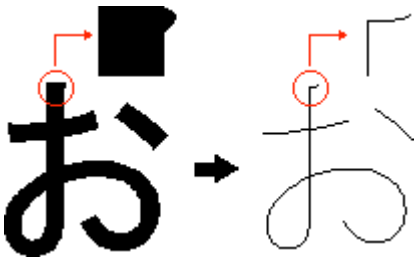
- ・ 文字を構成する線の太さが均一ではない



- ・ 文字が太すぎて、線の延びる方向の判別が困難



- ・ はね・おさえ・はらいなど、線の途中で形が変わる



このようなときには、[書式] - [線文字の編集] コマンドで文字を整形してください。

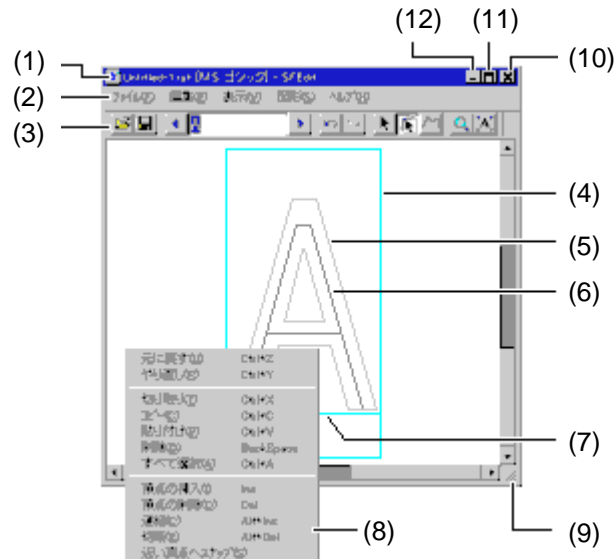
\*



付録

# SFEdit の操作方法

## 1 画面の名前と働き



### (1) タイトルバー

ファイル名、ベースフォントの名前、プログラム名が表示されます。  
ドラッグするとウィンドウの場所を移動することができます。

### (2) メニューバー

SFEdit のさまざまなコマンドを実行します。

### (3) ツールバー

ツールバーには、[開く ...]や[上書き保存]など SFEdit のコマンドを実行するためのボタンが用意されています。マウスポインタをボタンの上に重ねると、そのボタンの機能が確認できます。

### (4)

文字を納めている枠です。  
枠の大きさは、ベースフォントの種類や文字によって異なります。通常、枠の内部に収まるように文字を作ります。

### (5) ベースフォントの文字

線文字編集の下絵として表示されます。  
ベースフォントは、線文字フォントのデザイン元のフォントです。  
ベースフォントの文字を表示させないようにするには、[表示] - [ベースフォント]をオフにします。

### (6) 線文字

すべての線文字は、連続した直線と直線(単線)の組み合わせでできています。  
頂点の追加や削除、線分の追加などの編集ができます。

### (7) ベースライン

文字列を横に並べるときの基準線です。  
文字を横書きにしたとき、隣り合う文字のベースラインが段差のない水平線となるように並べられます。

### (8) ポップアップメニュー

編集エリア内でマウスの右ボタンをクリックすると、メニューが表示されます。

### (9)

この付近にマウスポインタを合わせると、ポインタの形が斜めの矢印に変わります。ドラッグするとウィンドウのサイズを変更することができます。

### (10) 閉じるボタン

プログラムを終了します。  
編集中的ファイルの変更内容を保存していないと、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されず。

### (11) 最大化ボタン

ウィンドウが最大化され、画面いっぱいに表示されます。

### (12) 最小化ボタン

ウィンドウが最小化され、タスクバーのボタンになります。

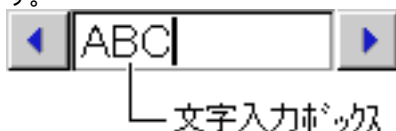
## 2 操作手順

### Step1: 文字を選ぶ

整形する文字を選びます。

選んだ文字は SFEdit の編集画面に表示され、頂点の位置を移動させたり、線分を追加したりすることができます。

1. ツールバーの文字入力ボックスをクリックし、文字列を入力します。  
既に文字列が入力されているときは、手順 2 へ進みます。



2. [左] または [右] ボタンをクリックします。  
反転表示されている文字が現在選択されている文字です。反転場所をこのボタンで移動し、文字を選択します。

### 日本語を入力する

SFEdit に日本語を入力するには、Windows に登録された日本語入力システムを利用します。(SFEdit に日本語入力システムは含まれません。)

日本語入力システムがインストールされているとき、次のキー操作で日本語を入力することができます。

DOS/V 機, PC98-NX シリーズ:

[Alt]キーを押しながら[半角 / 全角]キーを押す

PC-9800 シリーズ:

[Ctrl]キーを押しながら[XFER]キーを押す

日本語の入力方法や変換方法については、お使いの日本語入力システムの取扱説明書を参照してください。

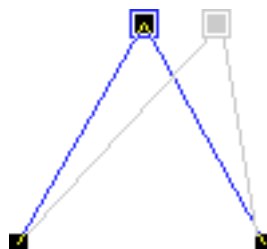
### Step2: 文字を整形する

SFEdit の編集機能を使って、文字を整形します。

ここでは、「頂点の移動」、「頂点の追加」、「頂点の削除」について解説します。その他の編集機能については、[コマンド解説](#)をご覧ください。

#### 頂点の移動

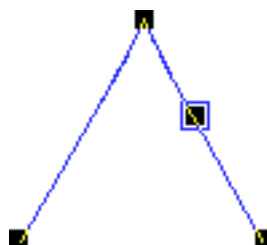
1. [移動] ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. 頂点( )をドラッグします。



複数の頂点を選択するには、[Shift]キーを押しながら頂点( )をクリックします。または、頂点を囲むようにドラッグします。頂点を移動するには、選択された頂点( )のどれか一つをドラッグします。



#### 頂点の追加

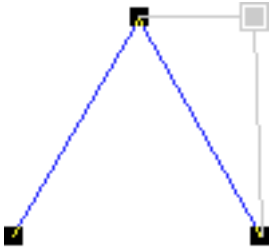
1. [追加] ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. 線上にマウスポインタを移動し、クリックします。  
頂点の追加場所( )が表示されます。




4. [図形]メニューの[頂点の挿入]をクリックします。  
線上でダブルクリックし、頂点を追加することもできます。

## 頂点の削除

1.  ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. 頂点をクリックします。  
選択された頂点が枠付きの四角形()に変わります。  
複数の頂点を削除するには、[Shift]キーを押しながら頂点( )をクリックします。または、頂点を囲むようにドラッグします。
4. [図形]メニューの[頂点の削除]をクリックします。




 関連項目

[基本操作](#)



## Step3: ファイルを保存する

整形した文字をファイルに保存します。  
ファイルを保存すると、このファイルを参照している文字列に変更結果が反映されます。

1.  ボタンをクリックします。  
[\[名前を付けて保存\]ダイアログボックス](#)が開きます。既存のファイルを編集している場合、ダイアログボックスは表示されません。
2. ファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックします。

## 3 基本操作


### 頂点を選択する

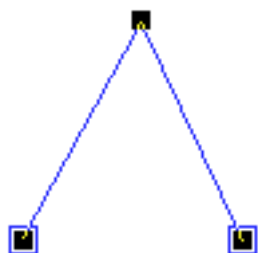
1.  ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. 頂点をクリックします。  
選択された頂点が枠付きの四角形()になります。




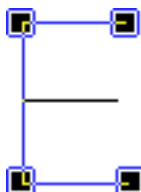
頂点選ばれているときに[Tab]キーを押すと、別の頂点を選択されます。頂点の選択順を逆にするには、[Shift]キーを押しながら[Tab]キーを押します。

### 複数の頂点を選択する


1.  ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. [Shift]キーを押しながら、選択したい頂点( )をすべてクリックします。または、頂点を囲むようにドラッグします。




選択された頂点が枠付きの四角形()になります。連続直線(または直線)に含まれる全ての頂点を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら頂点をクリックします。




### 頂点の選択を解除する

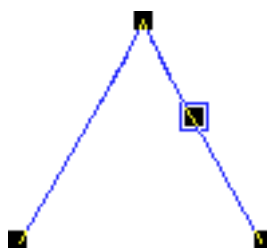
1.  ボタンをクリックします。
2. 選択されている頂点以外の場所をクリックします。

### 頂点を水平・垂直に移動する

1.  ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. [Shift]キーを押したまま、頂点( )を上下左右にドラッグします。

### 頂点を追加する


2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. 線の上にマウスポインタを移動し、クリックします。  
頂点の追加場所()が表示されます。
4. [図形]メニューの[頂点の挿入]をクリックします。

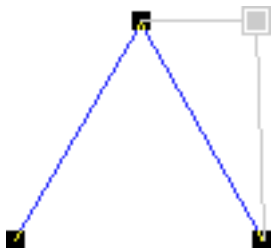


線の上でダブルクリックし、頂点を追加することもできます。




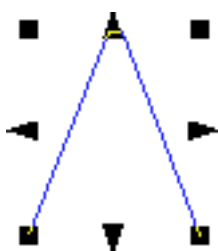
## 頂点を削除する

1.  ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックします。
3. 頂点をクリックします。  
選択された頂点が枠付きの四角形(■)に変わります。  
複数の頂点を削除するには、[Shift]キーを押しながら頂点( )をクリックします。または、頂点を囲むようにドラッグします。
4. [図形]メニューの[頂点の削除]をクリックします。




## 連続直線(または直線)を選択する

1.  ボタンをクリックします。
2. 選択する連続直線(または直線)の上にマウスを移動し、クリックします。
3. 選択された連続直線(または直線)の周りに と のマークが表示されます。




連続直線(または直線)が選ばれているときに[Ctrl]キーを押しながら[Tab]キーを押すと、別の連続直線(または直線)が選択されます。連続直線(または直線)の選択順を逆にするには、[Shift]キーを押しながら[Ctrl]キーと[Tab]キーを押します。


## 複数の連続直線(または直線)を選択する

1.  ボタンをクリックします。
2. [Shift]キーを押しながら、選択したい連続直線(または直線)をすべてクリックします。または、選択したい連続直線(または直線)全体を囲むようにドラッグします。




## 連続直線(または直線)の選択を解除する


1.  ボタンをクリックします。
2. 選択されている連続直線(または直線)以外の場所をクリックします。

## 連続直線(または直線)を水平・垂直に移動する

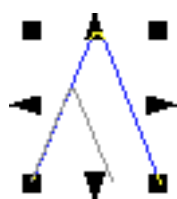
1.  ボタンをクリックします。
2. 連続直線(または直線)をクリックして選択します。
3. [Shift]キーを押したまま、連続直線(または直線)を上下左右にドラッグします。


## 連続直線を大きくする / 小さくする

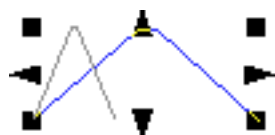
1.  ボタンをクリックします。
2. 連続直線をクリックして選択します。
3. 連続直線の周りに表示されているポイント(  や  )をドラッグし、大きさを変えます。


四角のポイント(  )をドラッグすると、サイズを自由に変更できます。

[Shift]キーを押しながらドラッグすると、縦横比を保ったままサイズを変更できます。




左右の三角のポイント(  )をドラッグすると、水平方向にサイズを変更できます。



上下の三角のポイント(  )をドラッグすると、垂直方向にサイズを変更できます。



## 連続直線(または直線)を作図する

1.  ボタンをクリックします。
2. 頂点をクリックして、連続直線(または直線)を作図します。
3. 連続直線の作成を終了するときは、終点でダブルクリックします。  
直線を作成するには、2つ目の頂点でダブルクリックします。

## 4 コマンド解説

### ツールバーのボタン

ツールバーには、[\[開く ...\]](#) や [\[上書き保存\]](#) など SFEEdit のコマンドを実行するためのボタンが用意されています。マウスポインタをボタンの上に重ねると、そのボタンの機能が確認できます。

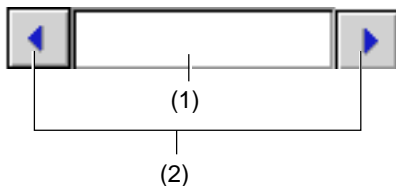
ツールバーに用意されているボタンは、次の通りです。



既存のファイルを開きます。  
このコマンドを実行すると、[\[開く\]](#) ダイアログボックスが開きます。



現在の名前でファイルを保存します。



#### (1) 文字入力ボックス

編集したい文字を入力します。

左右の矢印ボタンをクリックするか、文字をダブルクリックして文字を選択します。登録済みの線文字を編集または閲覧するには、[\[図形\]](#) メニューの [\[文字一覧\]](#) をクリックします。

#### (2) 矢印ボタン

文字入力ボックスの文字列から編集したい文字を選びます。文字入力ボックスの反転表示されている文字が現在選択されている文字です。反転場所をこのボタンで移動し、文字を選択します。



連続直線(または直線)を選択します。

連続直線(または直線)を選択するには、マウスポインタを連続直線(または直線)の上に重ねてクリックします。

連続直線(または直線)が選ばれているときに [\[Ctrl\]](#) キーを押しながら [\[Tab\]](#) キーを押すと、別の連続直線(または直線)が選択されます。連続直線(または直線)の選択順を逆にするには、[\[Shift\]](#) キーを押しながら [\[Ctrl\]](#) キーと [\[Tab\]](#) キーを押します。



直前の変更作業を取り消し、元に戻します。



直前の[\[元に戻す\]](#) コマンドを取り消します。



頂点の位置を移動し、連続直線(または直線)の形を変えます。

このボタンをクリックし、連続直線(または直線)の上に重ねてクリックすると、頂点( )が表示されます。線の上をダブルクリックすると、頂点が追加されます。

四角形のポインタ( )をドラッグすると、頂点の位置が変わります。線または頂点の近くに頂点をドラッグすると、線または頂点に吸着します。吸着させないためには、[\[Ctrl\]](#) キーを押しながらドラッグします。開いた多角形の端点どうしを吸着させると、閉じた多角形になります。

頂点が選ばれているときに [\[Tab\]](#) キーを押すと、別の頂点が選択されます。頂点の選択順を逆にするには、[\[Shift\]](#) キーを押しながら [\[Tab\]](#) キーを押します。



頂点をクリックし、連続直線(または直線)を作成します。

作成を終了するときは、終点でダブルクリックします。作成途中で右クリックまたは [\[Esc\]](#) キーを押すと、頂点が削除されます。

直線を作成するには、2 つ目の頂点(終点)でダブルクリックします。

このボタンをクリックすると、マウスポインタが図形描画ツール(+)に変わります。

線文字を拡大または縮小して表示します。

マウスの左ボタンをクリックすると、クリックした点を中心に表示が大きくなります。ドラッグすると拡大する範囲が指定できます。

右ボタンをクリックすると、縮小表示されます。



線文字を画面いっぱいに拡大または縮小して表示します。

## [ファイル]メニュー

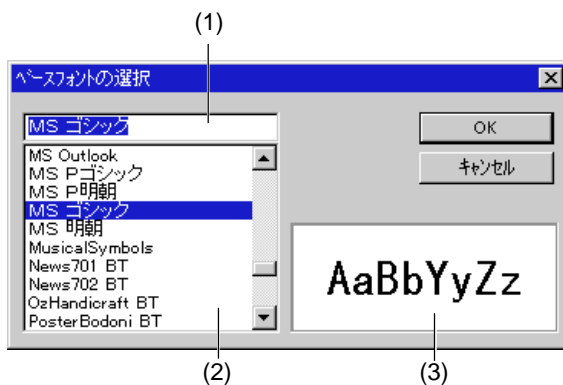
### [ファイル] - [新規作成] コマンド

新しい線文字フォントを作成します。

線文字フォントのデザイン元となるフォント(ベースフォント)を選択するダイアログボックスが表示されます。編集中のファイルの変更内容を保存していないと、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[N]

#### [ベースフォントの選択] ダイアログボックス



(1)  
現在選択されているフォントが表示されます。  
フォントを選ぶには、一覧の中のフォント名をクリックするか、フォント名を入力します。

(2)  
選択可能なフォントが表示されます。フォントをクリックして選びます。  
Windowsに登録されている **TrueType フォント** のみが表示されます。  
漢字やひらがななどの文字を線文字にするには、和文フォントを指定してください。欧文フォントを指定すると、文字が正常に表示されません。

(3)  
選択されたフォントの形を表示します。



### [ファイル] - [開く] コマンド

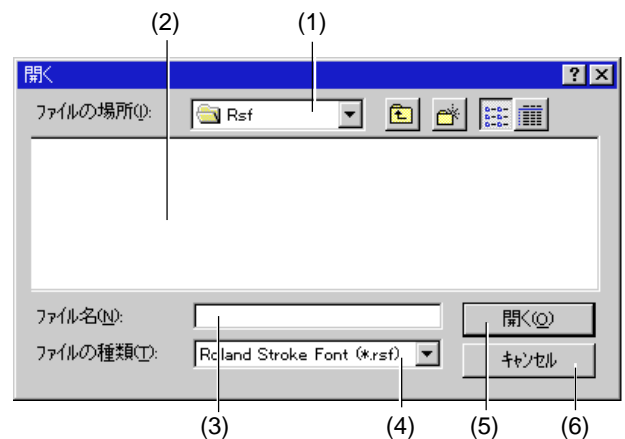
既存のファイルを開きます。

このコマンドを実行すると、[開く]ダイアログボックスが開きます。

編集中のファイルの変更内容を保存していないと、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[O]

#### [開く] ダイアログボックス



(1)  
ファイルが保存されている場所を選びます。

(2)  
[ファイルの場所]に収納されているフォルダやファイルが表示されます。  
ファイルをダブルクリックすると、そのファイルを開きます。フォルダをダブルクリックすると、そのフォルダの中身が表示されます。

(3)  
ファイル名を入力します。

(4)  
ファイルの種類を設定します。  
ファイルの一覧には、選んだ拡張子を持つファイルのみが表示されます。すべてのファイルを表示させるときは、[すべてのファイル(\*.\*)]を選びます。

(5) 開く ボタン  
ファイル一覧でファイルが選択されているとき、ファイルを開きます。

(6) キャンセル ボタン  
このダイアログボックスを閉じます。



## [ファイル] - [上書き保存] コマンド

現在の名前でファイルを保存します。

ファイル名と保存場所を変更して保存するには、[名前を付けて保存...] コマンドを使います。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[S]

## [ファイル] - [名前を付けて保存] コマンド

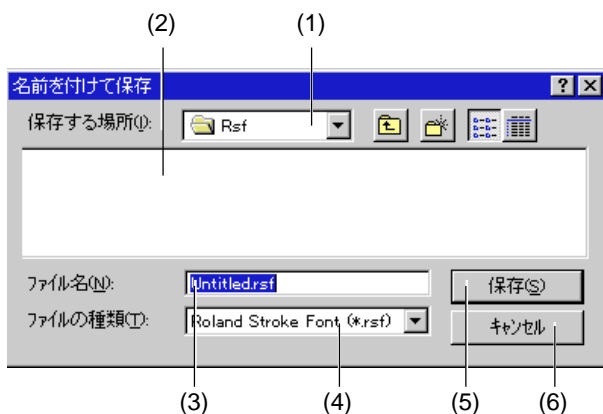
ファイルの名前を変えて保存します。

このコマンドを実行すると、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが開きます。

Windows 95 のロングファイルネームに対応しています。

拡張子は、「.rsf」としてください。

### [名前を付けて保存] ダイアログボックス



(1)  
ファイルを保存する場所を選びます。  
作成した線文字フォントを Dr.Engrave で選択できるようにするには、[Rsf]フォルダにファイルを保存します。

(2)  
[保存する場所]に収納されているフォルダやファイルが表示されます。  
フォルダをダブルクリックすると、そのフォルダの中身が表示されます。

(3)  
保存するファイル名を入力します。  
[ファイルの種類]で設定した拡張子が付きます。

(4)  
保存するファイルの拡張子を設定します。  
拡張子は、Windows がどのアプリケーションで作成したファイルかを識別するための目印です。SFEEdit のファイルの拡張子は、「.rsf」です。通常は、[Roland Stroke Font (\*.rsf)]に設定します。

(5) 保存 ボタン  
[保存する場所]に、ファイルを保存します。

(6) キャンセル ボタン  
このダイアログボックスを閉じます。

## [ファイル] - [終了] コマンド

プログラムを終了します。

編集中のファイルの変更内容を保存していないとき、ファイルを保存するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

▶ キーボードショートカット：



アプリケーションウィンドウの閉じるボタンをクリックする。

## [編集]メニュー



### [編集] - [元に戻す] コマンド

直前の変更作業を取り消し、元に戻します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Z]



### [編集] - [やり直し] コマンド

直前の[元に戻す]コマンドを取り消します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Y]

## [編集] - [切り取り] コマンド

選択した連続直線(または直線)を削除し、クリップボードにコピーします。

クリップボードの内容は、別の連続直線(または直線)がクリップボードにコピーされるまで保持されます。クリップボードの内容を貼り付けるには、[編集] - [貼り付け]コマンドを実行します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[X]

## [編集] - [コピー] コマンド

選択した連続直線(または直線)をクリップボードにコピーします。

クリップボードの内容は、別の連続直線(または直線)がクリップボードにコピーされるまで保持されます。クリップボードの内容を貼り付けるには、[編集] - [貼り付け]コマンドを実行します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[C]

## [編集] - [貼り付け] コマンド

クリップボードの内容をコピーして画面に貼り付けます。SFEeditの連続直線(または直線)のみ貼り付けができます。他のアプリケーションで作成した図形を、クリップボードを介して貼り付けることはできません。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[V]

## [編集] - [削除] コマンド

選択した連続直線(または直線)を削除します。クリップボードにコピーされません。

▶ キーボードショートカット： [Backspace]

## [編集] - [すべて選択] コマンド

画面に表示されている全ての連続直線(または直線)を選択します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[A]

## [表示]メニュー

### [表示] - [ズームイン] コマンド

線文字を拡大して表示します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Page Down]

### [表示] - [ズームアウト] コマンド

線文字を縮小して表示します。

▶ キーボードショートカット： [Ctrl]+[Page Up]

### [表示] - [ツールバー] コマンド

ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。

ツールバーには、[開く ...]や[上書き保存]など SFEEdit のコマンドを実行するためのボタンが用意されています。マウスポインタをボタンの上に重ねると、そのボタンの機能が確認できます。

ツールバーを非表示にすると、編集画面の表示領域が広がります。

■ 関連項目

[ツールバーのボタン](#)

### [表示] - [ベースフォント] コマンド

ベースフォントの表示 / 非表示を切り替えます。

### [表示] - [グリッド] コマンド

グリッドの表示 / 非表示を切り替えます。

グリッド間隔の初期値は、水平方向・垂直方向ともに 50 です。単位はありません。

画面の拡大率およびグリッドの間隔によってグリッドが表示されない場合があります。

### [表示] - [グリッドにスナップ] コマンド

オンにすると、連続直線(または直線)およびその頂点をグリッドに吸着させます。

グリッドに吸着させると、連続直線(または直線)の位置や頂点の位置を揃えやすくなります。

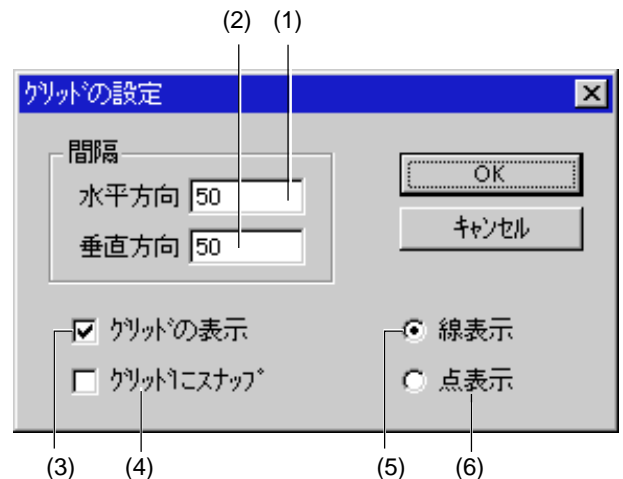
インストール直後は、この機能はオフに設定されています。

### [表示] - [グリッドの設定] コマンド

グリッドの間隔、グリッドの表示 / 非表示、グリッドへの吸着機能のオン / オフを設定します。

このコマンドを実行すると、[グリッドの設定]ダイアログボックスが開きます。

#### [グリッドの設定] ダイアログボックス



(1)

水平方向に隣り合うグリッドの間隔を入力します。

初期値は 50 です。単位はありません。

設定範囲： 0 ~ 1000

(2)

垂直方向に隣り合うグリッドの間隔を入力します。

初期値は 50 です。単位はありません。

設定範囲： 0 ~ 1000

(3)

グリッドの表示・非表示を切り替えます。

(4)

オブジェクトのグリッドへの吸着機能をオン / オフにします。

(5)

グリッドが線で表示されます。

(6)

グリッドが点で表示されます。



### [表示] - [画面フィット] コマンド

線文字を画面いっぱいに拡大または縮小して表示します。

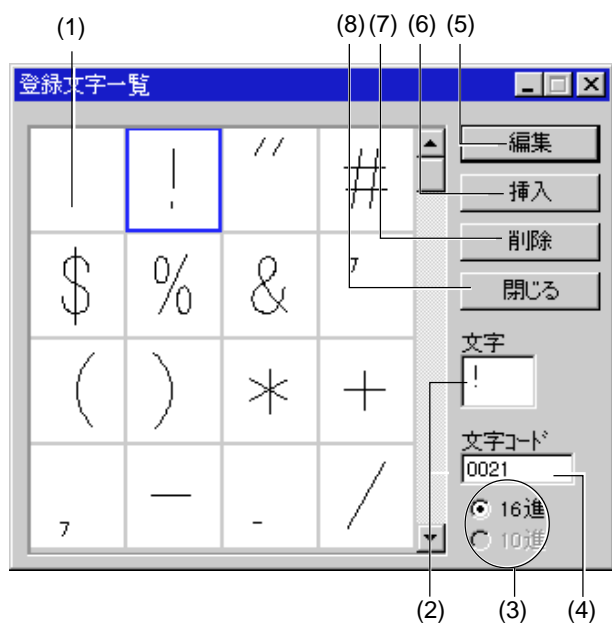
## [図形]メニュー

### [図形] - [文字一覧] コマンド

線文字化された文字の一覧を表示します。

このコマンドを実行すると、[登録文字一覧]ダイアログボックスが開きます。

#### [登録文字一覧] ダイアログボックス



- (1) 線文字化された文字の一覧が表示されます。  
ダブルクリックすると、編集画面に文字が表示されます。
- (2) 文字  
文字の一覧で選択されている文字を表示します。  
文字を入力して登録されている文字を表示させることもできます。
- (3) 文字コード  
文字の一覧で選択されている文字の文字コード(シフトJIS)を表示します。  
文字コードを入力して登録されている文字を表示させることもできます。
- (4) 文字コードの数値の表記形式を設定します。  
ベースフォントが欧文フォントのときのみ設定できません。

- (5) 編集 ボタン  
文字の一覧で選択されている文字を編集画面に表示させます。
- (6) 挿入 ボタン  
現在編集中的文字に、文字の一覧で選択されている文字(図形)を追加します。
- (7) 削除 ボタン  
文字の一覧で選択されている文字を一覧から削除します。
- (8) 閉じる ボタン  
このダイアログボックスを閉じます。

### [図形] - [線文字再生成] コマンド

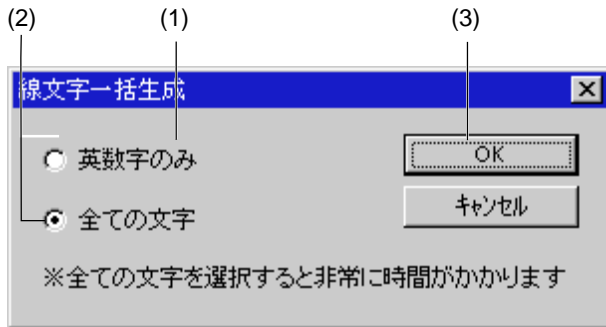
編集中的線文字を再生成し、画面に表示します。  
編集途中の線文字はクリアされ、再生成された線文字に置き換わります。  
該当する文字の編集を最初からやり直すときに利用します。



## [図形] - [線文字一括生成] コマンド

ベースフォントの文字をすべて線文字に変換します。  
このコマンドを実行すると[線文字一括生成]ダイアログボックスが開きます。

### 線文字一括生成ダイアログボックス



#### (1) 英数字のみ

ベースフォントのデザインを元に、文字セットの英数字部分のみを線文字に変換します。ただし、すでに線文字に変換されている文字は上書きされずに残ります。  
この項目は、ベースフォントが和文フォントのときだけ表示されます。

#### (2) 全ての文字

ベースフォントのデザインを元に、フォントに含まれる全ての文字を線文字に変換します。ただし、すでに線文字に変換されている文字は上書きされずに残ります。  
この項目は、ベースフォントが和文フォントのときだけ表示されます。

#### (3)

線文字の生成を始めます。

## [図形] - [頂点の挿入] コマンド

指定した場所に頂点を追加します。

▶ キーボードショートカット： [Insert] (または [INS])

■ 関連項目

[頂点を追加する](#)

## [図形] - [頂点の削除] コマンド

選択した頂点を削除します。

▶ キーボードショートカット：  
[Delete] (または [DEL])

■ 関連項目

[頂点を削除する](#)

## [図形] - [連結] コマンド

選択した2つの頂点を直線で結びます。

連続直線(または直線)の端の頂点を2つ選びます。頂点を1つしか選んでいなかったり、2つの頂点のどちらかが連続直線(または直線)の端でないときは、このコマンドを実行できません。

▶ キーボードショートカット：  
[Alt] + [Insert] (または [GRPH] + [INS])

## [図形] - [切断] コマンド

指定した場所で連続直線(または直線)を切断し、2つに分けます。

切断ポイントを指定するには、線の上または頂点をクリックします。

▶ キーボードショートカット：  
[Alt] + [Delete] (または [GRPH] + [DEL])

## [図形] - [近い頂点へスナップ] コマンド

選択した頂点を、最も近い頂点に重ねます。

別の連続直線(または直線)の頂点に  
スナップさせるには ....

1. ボタンをクリックする。
2. [Shift]キーを押しながら、スナップさせたい頂点を含む連続直線(または直線)とスナップ先の連続直線(または直線)を選択する。
3. スナップする頂点を選択する。
4. [図形]メニューの[近い頂点へスナップ]をクリックする。

---

## [ヘルプ]メニュー

### [ヘルプ] - [目次] コマンド

SFEdit のヘルプの目次を表示します。

### [ヘルプ] - [バージョン情報] コマンド

SFEdit のバージョン情報や著作権を表示します。

## 5 エラーメッセージ一覧

「ベースフォント @@@@ が見つかりません。代替りのフォントを選ぶか、終了してフォントをインストールしてください。」

開こうとしている線文字フォントのファイルに、Windows に登録されていないベースフォントが設定されています。フォント環境の異なる機種で作ったファイルか、Windows からフォントが削除された可能性があります。

[終了]をクリックし Windows にフォントをインストールするか、[代用]をクリックしてベースフォントの設定を変更してください。

[代用]をクリックした場合、既存の線文字は再生成されずに残ります。ただし、フォント代用以降は代用したフォントをデザイン元にした線文字が作られます。

「ファイルの入出力に失敗しました。」

ファイルを開くあるいは保存しているときにエラーが発生しました。

ファイルを保存するときにエラーが表示された場合  
ファイルの保存先ディスクが書き込み禁止になっているか、上書き保存しようとしたファイルが読み取り専用になっています。書き込み可能なディスクにファイルを保存するか、ファイルの属性を書き込み可能に変えてください。

ファイルを開くときにエラーが表示された場合

開こうとしているファイルが SFEdit のファイル形式ではありません。SFEdit のファイルを開いてください。

「メモリが不足しています。」

何らかの処理中にメモリ不足が発生した場合、他のアプリケーションを終了するか、Windows をリスタートしてください。

それでもメモリ不足が表示される場合は、ハードディスクの残り容量を確認してください。通常 Windows はハードディスクを仮想メモリとして使用するため、残り容量が少ないとエラーが表示されることがあります。この場合、不要なファイルを削除するか、他のディスクに移動するかして残り容量を増やしてみてください。

上記の処置を行ってもメモリ不足が表示される場合は、コンピュータのメモリ増設をお奨めします。

# 用語

## オブジェクト

彫刻する図形や文字列の総称。

## Dr.Engrave ファイル

Dr.Engrave の形式で保存されたファイル。

## Windows Bitmap (BMP)

BMP(Windows Bitmap)は、ウィンドウズ標準のグラフィックのファイル形式です。ビットマップデータを保存することができます。

すべてのグラフィックを点の集合で表現します。

## SFEdit ファイル

SFEdit の形式で保存されたファイル。通常、拡張子は「.rsf」とします。

## TrueType フォント

文字を輪郭線と塗りつぶしで表現するアウトラインフォントシステムの一つ。

ウィンドウズに標準で搭載されています。

## ベクトルデータ

ベクトルデータは、図形をいくつかの基準点とそれを結ぶ線で表現したときのデータ形式です。主にドロー系のアプリケーションを使って、ベクトルデータの図形を描画することができます。

## ビットマップデータ

ビットマップデータは、図形をドット(点)の集まりで表現したときのデータ形式で、ラスターデータとも呼びます。主にペイント系のアプリケーションでは、図形をビットマップで表現します。

## 解像度

ディスプレイの表示や、プリンタの印刷、または、スキャナで読みとる画像の精細さを表す尺度です。大きな数字で表されるものほどきめ細やかで美しい画像になります。

## 階調

色を表示する際の、色の変化の滑らかさを示します。

## クリップボード

ソフトウェアでコピー(複写)やカット(切り取り)を実行したときその情報を一時的に保存する機能。ウィンドウズに標準で装備されています。

## CSV

データベースや表計算ソフトなどのデータを、テキストファイルで保存するときの形式の一つ。項目やセルに入力されている文字(および数字)がカンマで区切ってファイルに書き出されます。

カンマを区切り文字として書き出す CSV 形式以外に、タブやスペースを区切り文字に指定できるアプリケーションソフトウェアもあります。

# 索引

## B

BMP ファイル ..... 33

## C

CSV ..... 76  
CSV ファイルの読み込み ..... 27, 37

## S

SFEdit ..... 43

## T

TrueType フォント ..... 5, 12, 68, 76  
TWAIN ..... 32, 37

## V

V カット ..... 54

## W

Windows Bitmap ..... 33, 76

## ア

「アウトラインが生成できませんでした。」 ..... 57  
[元に戻す] コマンド ..... 70  
アンドゥ ..... 39

## イ

[位置合わせ] コマンド ..... 55  
位置を揃える ..... 29, 30  
[移動] コマンド ..... 51  
[印刷] コマンド ..... 37  
[印刷プレビュー] コマンド ..... 37  
インポート ..... 33  
[インポート] コマンド ..... 33, 36

## ウ

[上書き保存] コマンド ..... 69, 36

## エ

SFEdit ファイル ..... 76  
エラー表示 ..... 57, 58, 76  
エラーメッセージ一覧 ..... 57, 58, 75  
選んだプレートだけを彫刻する ..... 27

## オ

多くのプレートを一度に彫刻する ..... 21, 24

オブジェクト ..... 7, 16, 76  
移動 ..... 16  
回転 ..... 16  
傾斜 ..... 17  
コピー ..... 17  
サイズ変更 ..... 16, 28  
削除 ..... 17  
選択 ..... 16  
複製 ..... 17

## カ

解像度 ..... 32, 33, 76  
階調 ..... 32, 33, 76  
[ガイド] コマンド ..... 41  
概要 ..... 5  
[拡大率の指定] ダイアログボックス ..... 40  
各部の名称 ..... 7  
加工範囲 ..... 10  
画像を読み込む ..... 32, 33  
カット ..... 39, 70  
[画面フィット] コマンド ..... 40, 71  
[環境設定] コマンド ..... 38  
[環境設定] ダイアログボックス ..... 38

## キ

起動 ..... 6  
吸着点の変更 ..... 30  
[行間] コマンド ..... 42  
[行揃え] コマンド ..... 42  
切り込み量 ..... 23, 26  
[切り取り] コマンド ..... 39, 70

## ク

グリッド ..... 30, 41  
[グリッド] コマンド ..... 41, 71  
[グリッドにスナップ] コマンド ..... 41, 71  
[グリッドの設定] コマンド ..... 41, 71  
[グリッドの設定] ダイアログボックス ..... 41, 71  
クリップボード ..... 30, 39, 76

## ケ

原点 ..... 7, 20

## コ

[後面に移動] コマンド ..... 55  
[コピー] コマンド ..... 39, 70

## サ

再加工 .....	27
最小化ボタン .....	61
最大化ボタン .....	61
[削除] コマンド .....	39, 70
[左右反転] コマンド .....	51
さらい彫刻 .....	50

## シ

「指定フォント @@@ がみつかりません。」.....	57
[終了] コマンド .....	38, 69
初期設定 .....	38
[書式] メニュー .....	42
[新規作成] コマンド .....	68, 36
[新規作成] ダイアログボックス .....	36
シンボル	
挿入 .....	31
[シンボル登録] コマンド .....	53
[シンボルの挿入] コマンド .....	53
[シンボルの挿入] ダイアログボックス .....	53
シンボルの登録 .....	31
[シンボルの登録] ダイアログボックス .....	53
シンボルの貼り付け .....	31

## ス

[ズームアウト] コマンド .....	40, 71
[ズームイン] コマンド .....	40, 71
数値の単位を変える .....	31
スキャナ .....	32, 37
[スキャナの選択] コマンド .....	37
[スキャナ読み込み] コマンド .....	37
図形情報バー .....	7
[図形情報表示] コマンド .....	40
[図形の移動] ダイアログボックス .....	51
[図形のプロパティ] ダイアログボックス .....	45
[図形]メニュー .....	44, 72
図形を貼り付ける .....	30
[スタイル] コマンド .....	42
ステータスバー .....	7
[ステータスバー] コマンド .....	40
[ストロークフォントの選択] ダイアログボックス .....	42
[すべて選択] コマンド .....	39, 70

## セ

正多角形を作る .....	29
正方形を作る .....	28
[切断] コマンド .....	73
[前面に移動] コマンド .....	54
線文字 .....	28, 43, 58, 59, 61
[線文字一括生成] コマンド .....	73
[線文字] コマンド .....	42
[線文字再生成] コマンド .....	72

[線文字の編集] コマンド .....	43
---------------------	----

## ソ

操作手順 .....	8, 62
速度 .....	23, 26

## タ

ダイアログボックス	
[拡大率の指定] .....	40
[環境設定] .....	38
[グリッドの設定] .....	41
[新規作成] .....	36
[シンボルの挿入] .....	53
[シンボルの登録] .....	53
[図形の移動] .....	51
[図形のプロパティ] .....	45
[ストロークフォントの選択] .....	42
[多角形のプロパティ] .....	46
[直線のプロパティ] .....	47
[テンプレートのプロパティ] .....	50
登録文字一覧 .....	72
名前を付けて保存 .....	69
[塗りつぶし設定] .....	50
[フォントの選択] .....	42
ベースフォントの選択 .....	68
[文字列のプロパティ] .....	44
[文字枠のプロパティ] .....	48
[レイアウトの設定] .....	22, 25, 54
タイトルバー .....	7, 61
[多角形に変換] コマンド .....	51
[多角形の結合] コマンド .....	51
多角形の頂点	
移動 .....	18
削除 .....	18
選択 .....	17
追加 .....	18
[多角形のプロパティ] ダイアログボックス .....	46
[多角形の分解] コマンド .....	52
縦横比 .....	28, 44, 46, 49
単位を変える .....	31

## チ

[近い頂点ヘスナップ] コマンド .....	52, 73
中止 .....	14
彫刻	
開始 .....	23, 25
原点 .....	20
準備 .....	23, 25
中止 .....	14
深さ .....	20

彫刻領域 .....	7, 22, 25
頂点 .....	62
移動 .....	62, 64
削除 .....	63, 65
選択 .....	64
追加 .....	62
[頂点の削除] コマンド .....	52, 73
[頂点の接続] コマンド .....	52
[頂点の切断] コマンド .....	52
[頂点の挿入] コマンド .....	52, 73
彫刻領域 .....	22
直線 .....	
移動 .....	65
作図 .....	66
選択 .....	65
[直線のプロパティ] ダイアログボックス .....	47

## ツ

ツールバー .....	7, 35, 61
[ツールバー] コマンド .....	40, 71
ツールバーのボタン .....	35, 67

## テ

テキストファイルの読み込み .....	27, 37
[テキスト読み込み] コマンド .....	37
テンプレート .....	21, 24
[テンプレートのプロパティ] ダイアログボックス .....	21, 24, 50
[テンプレートの編集] コマンド .....	54

## ト

動作環境 .....	5
動作しない .....	
Dr.Engrave .....	57
彫刻機 .....	57
[登録文字一覧] ダイアログボックス .....	72
閉じるボタン .....	61

## ナ

[名前を付けて保存] コマンド .....	36, 69
[名前を付けて保存] ダイアログボックス .....	69

## ニ

日本語の入力 .....	31
--------------	----

## ヌ

[塗りつぶし] コマンド .....	50
[塗りつぶし設定] ダイアログボックス .....	50

## ハ

[バージョン情報] コマンド .....	55, 74
[配置] メニュー .....	54
[倍率指定] コマンド .....	40
貼り付け .....	30, 31, 39
[貼り付け] コマンド .....	39, 70

## ヒ

ビットマップデータ .....	30, 76
[表示] メニュー .....	40, 71
[開く] コマンド .....	36, 68
[開く] ダイアログボックス .....	68

## フ

[ファイル] メニュー .....	36, 68
[フォント] コマンド .....	42
[フォントの選択] ダイアログボックス .....	42
深さを変える .....	20
複数枚の彫刻 .....	21, 24
[プリンタの設定] コマンド .....	37
プレビュー .....	37
[プロパティ] コマンド .....	
[書式] .....	43
[図形] .....	44

## ヘ

ペースト .....	30, 39
ベースフォント .....	61
「ベースフォント @@@@ が 見つかりません。...」 .....	58, 75
[ベースフォント] コマンド .....	71
[ベースフォントの選択] ダイアログボックス .....	68
ベースライン .....	58, 61
ベクトルデータ .....	30, 76
[ヘルプ] メニュー .....	55, 74
[編集] メニュー .....	39, 70

## ホ

ポート選択 .....	57
ポップアップメニュー .....	7, 61

## マ

真円を作る .....	28
-------------	----

---

## メ

- メニューバー ..... 7, 61
- 「メモリが足りません。」..... 57

## モ

- [目次] コマンド ..... 55, 74
- [文字一覧] コマンド ..... 72
- [文字間] コマンド ..... 42
- 文字コード ..... 72
- 文字入力ボックス ..... 67
- 文字の入力 ..... 22, 25
- [文字列のプロパティ] ダイアログボックス ..... 44
- [文字列方向] コマンド ..... 42
- [文字枠のプロパティ] ダイアログボックス ..... 48
- [元に戻す] コマンド ..... 39, 70

## ヤ

- 矢印ボタン ..... 67
- [やり直し] コマンド ..... 39, 70

## ヨ

- 「予期しないファイル形式です。」..... 58

## リ

- リドウ ..... 39
- 輪郭抽出 ..... 32, 33

## レ

- [レイアウト情報] コマンド ..... 40
- [レイアウトに戻る] コマンド ..... 54
- [レイアウトの設定] コマンド ..... 54
- [レイアウトの設定] ダイアログボックス ..... 22, 25, 54
- [連結] コマンド ..... 73
- 連続直線
  - 移動 ..... 65
  - サイズ変更 ..... 66
  - 作図 ..... 66
  - 選択 ..... 65



